

第2回第10採択地区協議会 議事録

開催年月日	令和6年7月17日（水）		
開催場所	三芳町総合体育館 3階 会議室		
開催時間	13:00 ~ 16:30		
教育委員会	出席者		
富士見市	山口 武士 教育長	宮 陽一 教育長職務代理者	
	深井美千代 教育委員	横田豊三郎 教育委員	深野はるみ 教育委員
ふじみ野市	朝倉 孝 教育長	富田信太郎 教育長職務代理者	
	茂井万里絵 教育委員（欠席）	西山 幸吉 教育委員	吉野 榮 教育委員
三芳町	古川 慶子 教育長	池上 善一 教育長職務代理者	
	細谷 雄司 教育委員	島田 喜昭 教育委員	多胡 晴子 教育委員
	専 門 員 長	事 務 局	
各種目1名	計13名	学校教育課長	石川 聖徳
		指導主事	利根川 陽子
第2回第10採択地区協議会	<p>（司会） ふじみ野市教育委員会 副参事兼学校教育課長 石川聖徳 （出席者）上記</p>		
1 開 会	<p>（司会） 皆様、こんにちは。 ふじみ野市教育委員会副参事兼学校教育課長の石川でございます。本日もどうぞよろしく願いいたします。 ただいまより第2回第10採択地区協議会を開会いたします。</p>		
2 あいさつ	<p>（司会） はじめに第10採択地区協議会 会長 朝倉 孝がご挨拶申し上げます。</p> <p>（第10採択地区協議会 朝倉 孝 会長） 皆様、こんにちは。ただいまご紹介いただきました、ふじみ野市教育委員会の浅倉でございます。本日はよろしく願いいたします。 本日ご多用の中、第2回第10採択地区協議会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。4月に第1回を開かれた後、各教科の調査研究を進めてまいりました。また、三芳町役場をお借りしまして、教科書展示会を開催し、教職員や一般の方々への教科書の展示を行いました。それをもとにした学校における調査、また、皆様からのアンケートもいただくことができました。それらについては、お手元の資料等に記載されておりますので、後ほど事務局の方から説明をさせていただきたいと思っております。</p>		

<p>3 説明</p>	<p>本日は、これまで調査員の方で研究をしまいいりました、それぞれの教科書の研究調査結果を発表させていただきます。ぜひこの第10採択地区の富士見市、ふじみ野市、三芳町の中学校の子供たちにとって一番適切な教科書選定につなげられるような場となりますことを祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞ、よろしく願います。</p> <p>(司会) 次に、本日の協議会について、事務局よりご説明申し上げます。</p> <p>(事務局) ふじみ野市教育委員会学校教育課の利根川でございます。 お手元の次第をご覧ください。 議長につきましては、協議会要綱第6条により、会長に議長をお願いいたします。</p> <p>続きまして、本日の流れについてでございます。本日は、令和7年度から4年間使用する中学校教科用図書について、専門員による調査研究結果を報告させていただきます。各教科の調査結果を報告した後、質疑応答の時間を設定いたします。以上でございます。</p> <p>(司会) ただいまの説明につきましてご質問等はございますか。</p> <p>それでは、これより、議長を 朝倉 会長にお願いいたします。</p> <p>(議長) 第10採択地区協議会要綱第6条の規定により本日の議長を務めさせていただきます。適切な選定に向けた慎重な協議がなされますようご協力をお願いいたします。</p> <p>なお本会議については要綱第10条に基づき、非公開とすべき項目の有無について確認をいたします。このことについて、事務局より提案はございますか。</p> <p>(事務局) 第1回協議会で、会議は全て公開とすると決定しております。したがって、本会議につきまして、非公開とすべき項目はございません。</p> <p>(議長) 事務局から、特に非公開とすべき項目がないとありましたが、委員の皆様はよろしいでしょうか。</p> <p>(委員) (全員承認)</p> <p>(議長) それでは専門員の教科用図書研究結果の報告及び質疑については、すべて公開することで協議を続けさせていただきます。</p>
-------------	---

<p>4 報告及び質疑</p>	<p>なお、ガイドラインに基づき、採択期間中の教科書発行者による接触は禁止されております。万が一接触を試みる教科書発行者があった場合には、事務局まで報告をお願いいたします。もし、そのような行為が報告された場合には、ガイドライン（4）②のとおり「教科書発行者による不適切な行為や公正取引委員会の警告も勘案して、教科書を採択する。」ことといたします。</p> <p>委員の皆様は、その方向でよろしいでしょうか。</p> <p>(委員) (全員承認)</p> <p>(議長) それではこれより各教科の研究結果報告を行います。 国語の専門員長を入室させてください。</p> <p>(議長) それでは、国語についての説明をお願いいたします。</p> <p>(専門員長) 皆さん、こんにちは。私は国語科専門員長を務めます、富士見市勝瀬中学校、校長の内海と申します。</p> <p>これより国語科調査研究の結果を説明させていただきます。</p> <p>国語科では4者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「知識及び技能が習得されるようにするための工夫について」、「思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫について」、「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりでございます。</p> <p>それでは、はじめに「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。</p> <p>はじめに、観点1「知識及び技能が習得されるようにするための工夫」についてご説明いたします。まず「広がる言葉」を配置して、教材の中で使われている表現と関連する言葉を学ぶことで語彙を増やす工夫がされています。例えば、3年生の説明的文章「絶滅の意味」の作中に「相互作用」という言葉が出てきますが、これに関連して他の固い言葉・学術的な言葉を増やすための教材が設けられています。また、「情報の扱い方に関する事項」に関連した教材として、「情報と論理の学び」を配置し、「情報の整理」に対応する教材と「情報と情報との関係」に対応する教材を設けています。いずれも身近にある題材を用いてステップを踏んで、内容を理解できるよう工夫されています。さらに、古典教材では、折り込みの色彩豊かな絵巻や資料性の高い図版を用意して作品の全体像をつかみやすくしています。あわせて、QRコードを通じて解説や朗読の動画を活用することで、古典に親しみ、理解を深められるよう工夫されています。</p> <p>続いて観点2「思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫」について、ご説明いたします。まず、単元ごとに見開きページの「てびき」を配置して、学習の目標や「見通す」「つかむ」「読み深める」「考えを持つ」「振り返る」といった学習の過程を示すことで、見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されています。また、「学びを支える言葉の力」として「情報と論理の学び」「文学の学び」「対話の学び」といった3つの系統の解説教材が用意さ</p>
-----------------	--

れています。前後に配置されている教材とあわせて学べるようにすることで、基礎力を高め、学習内容を定着させるための工夫がされています。

最後に、観点3「その他」についてご説明いたします。読書に関する内容について、読み物教材を扱った「読書への招待」、それと関連したテーマから本を紹介する「読書案内」、ポップ作りやビブリオバトルなど興味をもって取り組める「読書活動」などが配置されています。また、「世界を広げる本」の中に、著名人による図書紹介コラム「私のおすすめ」を設けるなど、読書経験を培う多様な教材が配置されています。

次に、「三省堂」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、観点1「知識及び技能が習得されるようにするための工夫」についてご説明いたします。まず「語彙を豊かに」を配置して、「読むこと」では教材の言葉をきっかけに多様な語句が取り上げられており、「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、学習活動に即した表現例が多数用意され、多様な語句を身につけ、語彙力を高めることができるよう工夫されています。

また、「情報の扱い方に関する事項」に関連した教材として、「情報に関係づける」を配置し、グラフや図表などの情報と文章とを関連づけ、自分の考えを深める工夫がされています。さらに、古典教材では、アニメーション映画「言の葉の庭」を例示して、現代と古典の世界とのつながりを身近に感じさせたり、写真・図版を豊富に用いたりして、学ぶ意欲を高め生涯にわたって古典に親しむことができるよう工夫されています。

続いて、観点2「思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫」について、ご説明いたします。まず、見開きページの「学びの道しるべ」を配置して、学習の目標や「構造や内容を捉える」「読みを深める」「自分の考えを深める」「学びを振り返る」といった学習の過程を示すことで生徒が見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されています。特に「順序立てる」「比較する」「分類する」「関連づける」「多角的に見る」「理由づける」「具体化する」「抽象化する」「仮定する」といった9つの「思考の方法」を示し、考える糸口や進め方がつかめるようにしたり、振り返りのキーワードを示して続く「読み方を学ぼう」で「回想」「批判的な読み」「省略」「具体と抽象」「状況・背景」「反復」といった読み方を意識させたりして、作品の構造や展開をつかめるよう工夫がされています。なお、「読み方を学ぼう」では、QRコードによる解説動画も参考にして、学んだ読み方を他教科の学習や社会生活の中での活用につなげることで、学習内容を定着させられるよう工夫されています。

最後に、観点3「その他」についてご説明いたします。読書に関する内容について、著名人による「私の読書体験」や教材と関連した本を紹介する「私の本棚」、「生き方」「心」「言葉」「自然科学」「平和」「文化」という6つのテーマでものの見方や考え方を深める本を紹介する「小さな図書館」、多様な読書活動を通して読書に親しむ習慣を形成する「読書活動」など、多様な切り口で読書に取り組めるよう工夫されています。

次に、「教育出版」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、観点1「知識及び技能が習得されるようにするための工夫」についてご説明いたします。まず、確かな言葉の知識を身に付け、文章で表された

情報の理解や日常生活で自らの表現に役立つ語彙を豊かにすることができるよう「言葉の小窓」、「表現に役立つ言葉」などが配置されています。また、「情報の扱い方に関する事項」に関連した教材として、「情報・メディアと表現」を配置し、マスメディアやネット文化、映像など、身近な情報の特徴を理解するとともに、情報の活用について考えを深められるよう工夫されています。さらに、古典教材では、QRコードによる解説動画を用意するとともに、巻末の「言葉の自習室」に別の章段や古典文学の名作などを掲載し、それぞれの作品を多彩に味わうことができるよう工夫されています。

続いて、観点2「思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫」について、ご説明いたします。まず、「学びを見通す」段階として、「目標」とあわせ「学びナビ」が本文や学習活動の前にあることで「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の目的意識をもって学習に取り組めるようにし、「学びを深める」段階として、学習のプロセスとなる「みちしるべ」を示し、「学びを確かめる段階」として「目標」に対応した「振り返り」を行うことにより次の学びにつながるよう工夫されています。また、QRコードにより筆者のメッセージや作品解説の動画につなぐ「まなびリンク」を設け、主体的な学習や個別最適化への工夫がされています。さらに、論理的思考力を高めるため、文章中の情報と情報の関係をとらえるための「言葉・情報」を配置して、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各教材で取り上げるとともに、SDGs教材「持続可能な未来を創るために」を配置して、社会や日常生活の中から課題を見出し、解決のために自ら考えを深められるよう工夫されています。

最後に、観点3「その他」についてご説明いたします。読書に関する内容について、単元ごとに「広がる本の世界」で関連する図書を幅広く紹介するとともに、学年ごとにビブリオバトルなどの読書活動を広げる教材を配置して、読書への興味を引き出す工夫がされています。

最後に、「光村図書」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、観点1「知識及び技能が習得されるようにするための工夫」についてご説明いたします。まず、自分の思考や感情を的確に言語化するための「語彙ブック」や語彙を広げ、語感を磨くための「語彙を豊かに」、場面に応じた話型・文型を示した「言の葉ポケット」などを配置し、言葉への意識を高められるよう工夫されています。また、「情報の扱い方に関する事項」に関連した教材として、「情報整理のレッスン」や「情報×SDGs」を配置し、具体例や図解で情報活用の方法を学べるよう工夫されています。さらに、古典教材では、折り込みの絵巻や図解、解説資料、QRコードによる朗読音声など、興味・関心を高め、作品の全体像をつかめるよう工夫がされています。

続いて、観点2「思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫」について、ご説明いたします。まず、「学びへの扉」「学びのカギ」を見開きで配置し、「学びへの扉」では学習の目標などの「見通しをもつ」「捉える」「読み深める」「考えをもつ」「振り返る」といった学習の過程を示し、「学びのカギ」では身に付ける資質・能力を図解で示すことで「振り返り」の際に何ができるようになったかを自分の言葉で言語化できるよう工夫されています。また、「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の単元それぞれにQRコードを活用した動画や音声資料、文章上達のコツをつかむレッスン、表現テーマ例集など、数多く用意されており、実生活で役立つ力が身に付けられるよう工夫され

ています。

最後に、観点3「その他」についてご説明いたします。読書に関する内容について、本を紹介する、感想を交流するといった「読書活動」や「広がる読書」、「本の世界を広げよう」、「読書を楽しむ」などを通じて様々な本を紹介し、読書に親しみ、考えを広げたり深めたりできるよう工夫されています。

説明は以上でございます。

(議長)

ただいま専門員長からの説明につきまして、ご質問いかがでしょうか。お願いします。

(委員)

国語においては、実際にペンで字を書くということも大事だと思うのですが、文章を書いて字を書くこと、それについての工夫はありますか。

(専門員長)

書くことの指導ですけれども、様々な形態の文章を書く教材が配置されております。例えば批評文や、自分でグラフ等を読み解きながら文章化するなど、様々な実生活、社会で生きる、書く力の育成のための工夫された教材が多数用意されております。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

その他、いかがでしょうか。お願いします。

(委員)

これからますます必要になってくると思われるプレゼンテーション能力ですが、そういった技能に関する各者の扱いに関してはどのように捉えていますか。

(専門員長)

話すこと、聞くことが、それぞれ関連づいた力の育成が必要だと思いますけれども、この点につきましても、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、ブックトーク等々の、自分が書きまとめた内容や自分の思いを、適切に相手に伝えるための様々な学習活動が用意されております。その際、QRコードが配置されておりますので、例えば話し合いの仕方、発表の仕方等の動画を通じて確認することができます。その点においては、子どもたちが自分の発表の動きのイメージをもちながら、準備を整えることができるのではないかと

と思っております。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他、いかがでしょう。
お願いします。

(委員)

観点3「その他」のところで、それぞれ読書についての内容をご説明いただいたと思うのですが、それについて教えてください。

(専門員長)

授業改善の配慮事項のうち、自主的・自発的な学習活動や、読書活動を充実するよう明記されている部分がございます。また、教科横断的な視点に立って育成する資質能力の一つとして、言語能力があげられております。この、教科等の学習の基本となるものが、主体的・対応的で深い学びを支えるものでもありますし、言語活動の充実、これがそれらの活動の要となる。そこを育成するために、読書活動は大変重要な取り組みだと考えております。そういった意味で「その他」で示させていただきました。

(議長)

よろしいでしょうか。他はいかがでしょう。

ご意見を含めていかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上で国語の質疑を終了いたします。専門員長はありがとうございました。ご退出ください。

(議長)

続いて、書写の専門員長を入室させてください。

(議長)

それでは、書写の説明をお願いいたします。

(専門員長)

皆さん、こんにちは。私は国語科書写の専門員長を務めます、ふじみ野市立福岡中学校、教頭の和田でございます。

これより、国語科書写の調査研究の結果をご説明いたします。

国語科書写では4者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「動画等の教材について」「行書に関わる例文について」「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりでございます。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「動画等の教材について」についてご説明いたします。二次元コード、QRコードから読み込める運筆動画の数が多いです。また、行書で注意すべき箇所が実際の動画の上から赤いラインや丸、点線などで表示され、さらに、真上からだけでなく斜めからの視点の動画もあり、注意点が明確でわかりやすいものとなっております。

次に、「行書に関わる例文について」についてご説明いたします。「点画の変化」等楷書と比較して、様々なパターンを提示しています。中でも、中学1年生において4段階に分けて行書を学ぶことで、生徒に無理なく系統的に行書が身につけられるものとなっております。

最後に、「その他」について主なものをご説明いたします。まず、基本、演習、ステップアップ等の教材がバランスよく配置されています。また、硬筆のお手本は多いのですが、毛筆のお手本は比較的小さく少なめです。さらに、毛筆で「トン スー ピタッ」の音の表記があることで、生徒がリズムよく書けるように工夫されています。その上、平仮名と片仮名の五十音表がそれぞれ行書と楷書で掲載されており、外国籍の生徒が日本語の基礎・基本を学べるものとなっております。

次に、「三省堂」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「動画等の教材について」についてご説明いたします。まず、お手本が動画の左上にも表示されており、運筆だけでなく、中心線を意識した文字のバランスも確認できるようになっています。さらに、小筆を使っている「名前の書き方」や左利きの生徒の書き方に対応した動画もございます。そして、二次元コード、QRコードの一覧表が最終頁に載っており、どの動画を参考にしたらよいか、生徒にとってわかりやすいものとなっております。

次に「行書に関わる例文について」ですが、まず、点画の丸みや連続といった行書の特徴が一つの課題ごとにステップを踏み提示され、わかりやすいものとなっております。また、行書と楷書の対比の文例が多く、それらの違いに気づきやすいものとなっております。

最後に、「その他」についてご説明いたします。まず、国語の教科書とリンクしている文例が多く親しみやすいのですが、五十音表はありません。「いろはにほへと」表は、元となった漢字の表記が提示されることによって文字文化を意識できるようになっています。そして、学年ごとに色分けがされており、1年生は教科書のどの部分なのか、一目でわかるよう工夫されています。さらに、姿勢と持ち方の指導が繰り返し掲載され、初心者に対しても使いやすい教材となっております。

次に、「教育出版」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「動画等の教材について」についてご説明いたします。真上からの動画、あるいは小筆の斜めからの動画と、視点が色々あり、運筆がわかりやすく、文例も多くございます。また、一つの課題において大筆、小筆を使用した毛筆と硬筆の両方の動画がございまして、生徒が毛筆と硬筆の違いに気づき、身につけやすいものとなっております。

次に、「行書に関わる例文について」について、主なものをご説明いたします。一つ目の「○」をご覧ください。3頁と大きく頁を割いて、書き初めのお手本がございます。また、文字の中心線や筆圧の違い、そのの運筆等を細かく示しています。

最後に「その他」についてご説明いたします。まず、他の教科書と比べ、大きなサイズとなっております。また、国語の教科書とリンクし、「書くこと」の意義、改善すべき字例が示されています。さらに、平仮名・片仮名の五十音表と「いろはにほへと」表の併記があり、外国籍の生徒が日本語を学ぶのに役立てることが出来ます。そして、小包伝票や往復はがき、包み紙、入学願書や原稿用紙の書き方にくわえて、ノートのとり方やレポートのまとめ方など資料が多数載っております。

最後に、「光村図書」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「動画等の教材について」についてご説明いたします。一つ一つの課題に二次元コード、QRコードが多数ついております。また、真上と斜めからの視点をあわせた動画があります。さらに、お手本の画像をPDFでダウンロードできるようになっていたり、「漢字を分析してみよう」では点画の組み合わせについてアニメーションで説明したりと、生徒の興味・関心をひく工夫がなされています。

次に、「行書に関わる例文について」について、主なものをご説明いたします。二つ目の「○」にありますように、例えば2年生の「行書と仮名の調和」において適切な書き方を生徒に考え選ばせ、話し合いを行わせることで、協働的な学びができるような工夫がなされています。

最後に「その他」についてご説明いたします。別冊の「書字ブック」が付属されており、生徒がそこにたくさん書き込み、練習できるようになっております。また、三つ目の「○」にあるように、イラストや漫画を用いることで生徒が親しみやすさを感じるものとなっております。さらに、「自分らしい字」というコラムでは、著名人の自筆の署名を示すことで、文字に表れる人の生き方や考え方に思いをはせさせ、多様な個性と文字について考えさせています。その上、五十音表のみならず、数字やアルファベットの表もあり、実用的な練習ができるよう工夫がされています。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。

ただいまの専門員長からの説明につきまして、ご質問いかがでしょうか。お願いします。

(委員)

生徒たちにとって動画やQRコードというのは、復習をするとき大切かなと思うのですが、数的な違いというのを教えていただければと思います。よろしくをお願いします。

(専門員長)

今ご指摘がありましたように復習で使うのも大事ですが、授業でも大変役立つ

つ運筆等の動画コンテンツとなっております。数的な違いについてですが、どの会社も動画に力を入れていて、多少数字に違いはございますけれども、どの会社も運筆動画は揃っていると存じております。

(議長)

よろしいですか。

(委員)

はい。

(議長)

他、いかがでしょうか。

お願いします。

(委員)

子どもたち自身がこのQRコードを使って動画を見て、書写の練習をしている子どもたちは、おおよそどれくらいいるのか教えていただけますか

(専門員長)

今まで、一斉授業では、教員が水書板を使ったり、あるいは空書きで示したり、あるいは生徒の筆を持って指導をしたり、あるいは生徒の書いたものについて朱筆を入れたりして指導をしていました。ですが、今はタブレットが全員に配布されております。場所が塞がれている場合は、黒板にプロジェクターを使いまして、その動画を見せながらやりますので、そのときは必要な生徒が見ながらやっている状況。それからこれからはタブレットを用いさせて、一人一人が自分に必要なところを繰り返し見ることができるようになりますので、タブレットで見たいときには、見て練習をするというのを授業でもやっておりますので、具体的な数字というと、必要な生徒がそれに応じてということが正確になろうかと思えます。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他、いかがでしょうか。

お願いします。

(委員)

単元数とか教材数に違いがあるのですけれども、指導上何か影響はありますか。

(専門員長)

どこの会社も学習指導要領に基づいて作っておりますので、その中にそれぞ

れ各者に重点があるのかなと思いますけれども、指導上特段問題はございません。

(議長)

他、いかがでしょうか。

私の方から一点だけ、今専門員長からいくつかの会社も含めて、改善してほしいという観点で述べられた部分もあります。前提として、全ての教科書が検定で合格しているということで、これから、教科書選定にあたっては御投票をお願いしたいと思います。今書写では出ましたけれども、他でも出てくると思いますが、あくまでも、全ての教科書は検定済みであるという前提で御投票をお願いいたします。それでは、ありがとうございました。ご退出ください。

(議長)

続いて、歴史及び公民の専門員長を入室させてください。

(議長)

それでは、歴史及び公民について説明をお願いいたします。

(専門員長)

皆さん、こんにちは。私は、社会科専門員長を務めます、ふじみ野市立大井東学校、教頭の鈴木でございます。

これより、社会科調査研究の結果を説明いたします。社会科では歴史的分野で9者、公民的分野で6者について調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、1「社会科の学習問題を追究・解決するための単元構成の工夫」、2「見方・考え方を身につけるための資料等の工夫」、3「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。「その他」は、歴史では、「デジタル教材への対応」について、公民では「主権者教育に関する内容の取扱い」について、主に調査いたしました。

はじめに歴史的分野についての調査研究結果をご報告申し上げます。

まず、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、観点1についてご説明いたします。各単元は、導入・展開・まとめの学習過程で構成されており、各章のまとめでは、多様な思考ツールを用いて思考を整理できるようになっています。また、QRコンテンツを活用すれば自身で別の思考ツールを選択してまとめることもでき、学習内容を整理しやすくする工夫が見られます。

次に、観点2について、主なものをご説明いたします。歴史における見方・考え方には「時代・年代」「比較」「推移」「相互の関連」「現在とのつながり」が挙げられます。各本文ページの資料はバランスよく配置されており、資料の掲載数も豊富です。見方・考え方との関連が資料に適切に示されており、生徒がどのような視点で資料を活用すればよいか分かりやすくなっています。

最後に、観点3についてご説明いたします。各本文ページのタイトル・学習課題の横にQRコードが掲載され、定位置に配置することで、どの生

徒も迷わずに活用できるようにしています。多彩なQRコンテンツにより動画視聴や思考ツールの選択、他分野へのリンクが可能となっており、個別最適な学びや協働的な学びをサポートするものとなっています。

次に、「教育出版」についてご報告いたします。

観点1につきましては、導入・展開・まとめの流れで構成されており、まとめで時代の特色を考察する際に、比較、推移、つながりといった適切な「見方・考え方」を働かせる工夫が見られます。

観点2につきましては、「歴史の技」というコーナーを8か所設け、歴史で活用機会の多い資料について、活用方法や手順を示していることで深い学びを可能にしています。各本文ページの資料掲載数は地図、絵・写真、年表とバランスよく配置されています。

観点3につきましては、各本文ページのQRコードから学習内容に関するクイズや関連リンク集にアクセスし、活用可能となっています。

次に、「帝国書院」についてご報告いたします。

観点1につきましては、単元の導入で立てた予想から、この時代に対する考えがどのように深まったかをまとめる部分が設けられており、生徒が単元を通して自身の学習の成果がわかる構成となっている点に工夫が見られます。

観点2につきましては、探究する課題の設定が豊富であり、考えを深めさせる工夫がされています。また、時代の様子を大観するイラスト資料・イラスト地図とともに、前の時代との変化を考えられるように工夫しています。

観点3につきましては、こちらもQRコードにより、動画、ワークシート等、学習内容を定着・深化させるコンテンツが収録されています。

次に、「山川出版社」についてご報告いたします。

観点1につきましては、単元を貫く問い以外にも、各本文ページにおいて農民の立場で考える等の多様な種類の発問が多く設けられ、学びを深める工夫が見られます。

観点2につきましては、各本文ページの見方・考え方を身に付けるための資料掲載数は多く、本文量を含め、情報量が多い構成になっています。

観点3につきましては、資料の脇にQRコードが掲載されており、読み取ると掲載資料を拡大して見たり、博物館のウェブページを見たりすることができるものになっています。

次に、「日本文教出版」についてご報告いたします。

観点1につきましては、これまでの他者同様に導入・展開・まとめの構成となっています。各単元で適切に年表や地図が配置されており、時間軸と空間軸の両方で時代を大観できる工夫が見られます。

観点2につきましては、各ページの資料は地図、絵・写真、年表とバランスよく配置されています。問いの解決に向けて「トライ」のコーナーで見方・考え方を働かせた学習ができるように工夫されています。

観点3につきましては、各本文ページの学習課題横にQRコードがあり、ポートフォリオ、動画、確認小テスト等が設定されています。

次に、「自由社」についてご報告いたします。

観点1につきましては、まとめ部分において、時代の比較や、「ひとこと」作文、意見交換会等のページを充実させ、単元のまとめ方の工夫が見

られます。

観点2につきましては、各時代の歴史を動かした人物が詳しく紹介されていることで、そこから出来事等と関連付けて時代の特色をとらえやすくする工夫が見られます。

観点3につきましては、特にQRコード等は設けられていませんが、学習内容の関連事項を自分でタブレット端末で調べることが求められます。

次に、「育鵬社」についてご報告いたします。

観点1につきましては、単元を通して、各事象を結び付けて考えられるよう、様々な視点で振り返る工夫が見られます。まとめ部分では、知識を問う発問がやや多くなっています。

観点2につきましては、各ページの資料は地図、絵・写真、年表とバランスよく配置されています。コラムが充実しており、見方・考え方を働かせて活用できるように工夫をしています。

観点3につきましては、各章の導入ページにQRコードがあり、関連する動画の視聴や情報収集ができます。

次に、「学び舎」についてご報告いたします。

観点1につきましては、各章の導入で、見開きで世界地図が描かれ、年表とともにその時代の様子を示す資料が提示されイメージを掴みやすくしています。世界史や近現代史のテーマが他者より多く設定されており、世界との関連を重視しています。

観点2につきましては、資料によっては、文字資料等の活用の仕方がやや難解なものも掲載されていますが、各本文ページの資料掲載数は豊富で、絵や写真資料が豊富にあります。

観点3につきましては、QRコードは示されていませんが、インターネットを使って調べ学習する方法等が、特設ページに示されています。

最後に、「令和書籍」についてご報告いたします。

観点1につきましては、他者と比較してページ数が2倍で全体が構成されています。また、単元の導入とまとめのページが少ない構成ですが、本文の記述が充実しています。近現代では、歴史上の重要な出来事に触れて、生徒の興味や関心を引くテーマで議論させようとする工夫が見られます。

観点2につきましては、本文ページには他の教科書には掲載されていないような文字資料があり、生徒が主体的に資料を活用するには難易度が高い印象です。ですが、巻末資料は各時代の資料がバランスよく掲載され、写真等のサイズが大きくて見やすくなっています。

観点3につきましては、特にQRコード等のデジタル教材は用意されていません。

歴史的分野についての説明は以上でございます。

続いて、公民的分野についての調査研究結果をご報告申し上げます。

まず、「東京書籍」について、観点に基づきご説明いたします。

観点1につきましては、SDGsの視点から単元を構成するものが多く、現代社会の身近な問題を自分事として考える工夫が見られます。また、単元のまとめは、段階的に取り組める構成となっており、文章だけでなく、歴史的分野同様、QRコードにより多様な思考ツールを用いた方法で生徒が主体的に学ぶことができます。

観点2につきましては、資料は最新で、過去との比較がしやすい資料が多く掲載されています。公民的分野における見方・考え方には「対立と合意」「効率と公正」「個人の尊重と法の支配」「民主主義」「希少性」「分業と交換」「持続可能性」「協調」が挙げられます。学習活動や資料にこれらの「見方・考え方マーク」が示されていることで、見方・考え方を効果的に働かせ、深い学びにつなげられる工夫をしています。

観点3につきましては、「18歳へのステップ」のコーナーで「18歳、20歳でできること」「選挙の流れ」「契約と支払い」のテーマを設け、主権者意識等の醸成を促す工夫がされています。

次に「教育出版」についてご報告いたします。

観点1につきましては、まとめにおいて、3段階の構成となっており、発問数も多く工夫が見られます。思考ツールを用いる場面も一部ありますが、文章でまとめる形式が多くなっています。

観点2につきましては、写真やグラフ以外に、漫画やイラストで興味・関心を高めつつ、学習する際の視点をわかりやすくおさえる工夫が見られます。また、各章で意識させたい見方・考え方の視点を、導入ページで紹介しており、各本文ページで問いに「見方・考え方マーク」が示されています。

観点3につきましては、特設コーナーはありませんが、終章において「持続可能な未来の社会へ」と題して、SDGsの視点から主権者としてどうあるべきかを考え深める学習が設定されています。

次に「帝国書院」についてご報告いたします。

観点1につきましては、章の導入は暮らしの一場面を例にする等、学習課題を自分事として捉えられるようにしています。また、振り返りにクラゲチャート等の思考ツールを用いて考える工夫が見られます。

観点2につきましては、身近に感じられる写真資料やわかりやすいイラストが多く、身近な事例を取り扱う工夫が見られます。本文ページの資料やコラムには「見方・考え方アイコン」が表示され、見方・考え方を働かせる場面や方法が示されています。

観点3につきましては、「18歳への準備」のコーナーで3テーマを設け、実践的な知識や技能を学習内容と併せて習得できるよう工夫しています。

次に「日本文教出版」についてご報告します。

観点1につきましては、単元の中で小学校社会科、地理・歴史との関連で学習を進められる箇所では「連携コーナー」が設けられ、他分野と結びつけて様々な視点から事象を客観的に捉えて考えるための工夫が見られます。

観点2につきましては、定まった正解のない問いについて考えたり、資料の読み取りから問いを始めて段階的に理解したりする等の工夫が見られます。各本文ページに資料と問いに対しての見方・考え方の働かせ方を示しており、生徒が思考しやすくなっています。

観点3につきましては、「明日に向かってー私たちの社会参画ー」のコーナーで主権者教育に関わる内容が10テーマ設定されており、意識を高める工夫が見られます。

次に「自由社」についてご報告いたします。

観点1につきまして、単元の導入ページは特にありませんが、終章では「課題の探求」として卒業論文の作成やディベートで構成されており、主体的に課題解決の学習ができるような構成の工夫が見られます。

観点2につきましては、「アクティブに深めよう」のコーナーにおいて、見方・考え方を働かせる問いが設定されています。また、一つ一つの資料が大きく掲載されており、読み取りがしやすくなっています。また、本文ページには、脚注が充実しております。

観点3につきましては、特集コーナーはありませんが、単元の終盤に学習内容を深める「もっと知りたい」が設けられており、その中で主権者教育に関わるものが掲載されています。

最後に「育鵬社」についてご報告いたします。

観点1につきましては、「学習の入口・これから」という流れで単元構成されており、まとめて思考ツールを活用する場面では、優先順位や手順を確認できるような工夫が見られます。

観点2につきましては、現代の諸課題や最新のトピックスに関する資料が掲載されています。見方・考え方を働かせるコーナーで問いを設け、資料を適切に活用する工夫が見られます。

観点3につきましては、特集コーナーはありませんが、「学習を深めよう」やコラムにおいて、多角的に理解できるよう、両論併記したり、自分と社会のつながりを意識したりできるようになっています。

公民的分野についての説明は以上です。

(議長)

ただいま、歴史、それから公民的分野についての説明がありましたが、ご質問はございますでしょうか。

お願いします。

(委員)

単元の構成の中でSDGsの視点を単元に構成するというものなのですが、大体どういう形で構成されているのですか。

(議長)

公民の分野ですね。

(委員)

はい。

(専門員長)

SDGsの視点は様々ございますけれども、憲法を扱うような人権の単元では、男女の問題ですとか、そういった人権に関わるものが掲載されています。それから第5章では、世界と日本の関連というのが主なテーマになってくるのですが、世界の中で様々な問題となっている食料問題ですとか、エネルギーの問題ですとか、そういったものが導入に示されていることで意識付けがされています。

(議長)
よろしいでしょうか。

(委員)
はい。

(議長)
他、いかがでしょうか。
お願いします。

(委員)
2点お願いしたいのですが、まず歴史の方で、具体的に分かるかというところですが、資料によってはやや難解なものがあるという言葉があるのですが、子どもたちにとって、難解というのはどういうことなのかということをお伺いしたい。2点目は、公民の方で、歴史の方が非常にデジタル的な、QRコードとかの話が入っているのですが、公民の方ではまったくQRコードという言葉もなくなっているのです、その辺のデジタル教材としての付け所があれば教えてください。

(議長)
では、2点お願いします。

(専門員長)
まず1点目でございますが、難解な資料と申し上げましたが、文字資料です。高校の教科書もございまして、そちらにも掲載されているような少し文字量の多い資料です。写真資料などではなく、文字の資料となると、子どもによってはやや読み取るときに時間がかかってしまうかなという認識です。

公民のQRコードなどのデジタル教材につきましては、歴史的分野と同様に掲載されております。それぞれの出版社によりまして、タイトルの横にQRコードがついていたり、資料の脇にQRコードがついていたり、アクセスすると歴史的分野と同様に動画で最新のトピックスが見られるようになっていたり、思考ツールを選べるようになっていたり、そのような形になっております。

(議長)
よろしいでしょうか。

(委員)
はい。

(議長)
他、いかがでしょうか。
お願いします。

(委員)

歴史の関係について各者二次元コードが充実しているようですが、個人差はあると思うのですが、実際に二次元コードを利用する割合とか、それにとれる時間はどの程度か、というのが1点。もう1点は、歴史・公民を指導する上で、教科書のことではないけれども、先生方が一番大事にしていることはどういうことなのか、もしわかれば教えてください。

(専門員長)

1点目でございます。QRコードなどを使用する量に関しましては、一人一台端末が与えられておりますので、どのような授業の形式をとるかによっても変わってくると思いますが、調べ学習をする際に自分で読み取ってそこから動画を各自視聴したり、そこに掲載されているデジタルコンテンツを使って自分でまとめを作成したりということが可能ですので、新しい教科書においてはこれまで以上に使用頻度が高くなるのではないかなと感じております。

(議長)

2点目の質問については、教科書の選定での調査というところでありますので、ここで専門員長が述べることはあくまでも専門員長個人の感想になってしまうと思いますので、ちょっとそこは控えさせていただければと思います。よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上で、歴史・公民の分野の説明を終了させていただきます。ありがとうございました。ご退出ください。

(議長)

それでは、地理及び地図の専門員長を入室させてください。

(議長)

それでは、地理及び地図についての説明をお願いいたします。

(専門員長)

皆さん、こんにちは。私は、社会科地理的分野及び地図の専門員長を務めます、三芳町立三芳中学校の校長の林でございます。よろしくお願いたします。

これより、社会科地理的分野及び地図の調査研究の結果をご説明させていただきます。地理的分野では4者について、地図では、2者について調査研究を行わせていただきました。調査研究の観点といたしまして、観点1「知識及び技能が習得できるようにするための工夫について」、観点2「思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫について」、「その他」の3つを設定し、

調査しました。その結果につきましては、お手元の報告書にあげているとおりでございます。

それでは、地理的分野から「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、観点1についてご説明いたします。見開きで1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、「チェック&トライ」の流れで構造化し、学習内容を定着できるようになっております。また、1単位時間の見開きページに必ずQRコンテンツが用意されていて、クイズや毎時間のチェック&トライを使って基本事項の定着が図れるように工夫されています。そして、「スキルアップ」というコーナーを設けて、地理学習に必要な基本的な技能を段階的に身に付けられるように工夫されております。

次に、観点2について、ご説明いたします。「資料から発見！」という思考力・判断力・表現力の育成に特化したページを設けて、写真やグラフ、地図などの資料を読み取る力を身に付けられるようにしています。また、各章の終結部に思考ツールを使って考えるステップを設けて、自分の考えを整理し、学びを深められるよう工夫されています。

最後に「その他」についてご説明いたします。世界の諸地域を学習する節の始めに印象的な一枚の写真に掲載し、地理への興味・関心を高めるとともに、主体的に学習に取り組めるように工夫されております。また、節の導入ページに単元の見通しを持たせるコーナーを設けて、これから学習する内容を分かりやすく示し、主体的に学習に取り組めるよう工夫されています。

次に、「教育出版」についてご説明いたします。

はじめに、観点1についてご説明いたします。1単位時間の内容が、学習課題、本文、まとめ、確認、表現の流れで構造化されております。また、「地理の技」のコーナーが本文内に適宜設けられ、地図やグラフの扱いなど地理の学習に必要な技能が身に付けられるよう工夫されております。そして、随所にQRコンテンツ「まなびリンク」が掲載されており、ウェブサイトから、学習に役立つ動画やクイズなどにアクセスできるようになっています。

次に、観点2についてご説明いたします。1単位時間ごとに、まとめとして「表現」の問題があり、振り返りの活動として自分の言葉でまとめ、表現する力の育成を図ることができるように工夫されています。また、単元の終わりに「学習のまとめと表現」のページを設け、自分の言葉でまとめたり、グループで考えを共有したりすることができるよう工夫されております。

最後に「その他」についてご説明いたします。三分野および他教科の学びを関連づけるために「関連」マークが設けられ、系統的な学習が展開できるよう工夫されております。また、巻末や折り込みページ、各ページの写真や地図、グラフを大きく掲載することで、地理への興味・関心を引くよう工夫されております。

続きまして、「帝国書院」についてご説明いたします。

はじめに、観点1についてご説明いたします。見開きページごとに「確認しよう」という問いがあり、重要事項を確認できるようにしています。また、各章・節末の「学習を振り返ろう」では、白地図を用いながら学習事項が確認できるよう工夫されています。さらに、「技能をみがく」というコーナーを設けて、地理的な見方・考え方を働かせて考察する上で必要な基礎的な技能が習得できるよう工夫されております。

次に、観点2についてご説明いたします。見開きページごとに、学習課題を振り返り、習得した知識を活用して言語活動につなげる「説明しよう」という問いを設けて、思考力、判断力、表現力等を育成できるよう工夫がされています。さらに、章末の振り返りページで、章・節の問いに対して思考ツールを活用して自分の考えを整理・構造化できるように工夫されています。

最後に「その他」についてご説明いたします。タイトルの下に節・章の問いがあり、学習課題を解決しながら節・章の問いにつなげる工夫が見られます。また、QRコンテンツを随所に設けて、個別最適な学びを支援する動画や統計資料などが紹介され、ワークシートの活用もできるように工夫されています。

次に、「日本文教出版」についてご説明いたします。

はじめに、観点1についてご説明いたします。見開きページごとに、1時間の授業を振り返り、学習した内容の定着を促すための「確認」・「表現」という問いが設けられ、知識の定着が図れるよう工夫されています。また、単元ごとの問いを解決し、学びを振り返る「まとめと振り返り」のページを設けて、簡単な確認問題や用語の確認で知識の定着が図れるよう工夫されています。さらに、「スキルUP」というコーナーを設けて、地理の学習を進めるにあたって必要な技能を6種類に分類し、系統立てて習得できるようにしております。

次に、観点2についてご説明いたします。世界や日本の諸地域を学習する最初のページに州や地方のキーワードが提示され、節の問いを考える上でのヒントとなっています。さらに、「まとめと振り返り」に、思考ツールを利用して自分の考えをまとめる活動や「議論してみよう」というコーナーを設けて、発展的な学習ができるように工夫されています。

最後に「その他」についてご説明いたします。「地理+ α 」・「持続可能な地域をめざして」というコラムを設けて、学習を掘り下げて、発展的な内容で理解を深めることができるよう工夫されています。また、巻頭には「地理的な見方・考え方」について、イラスト等を使ってわかりやすく解説したページを設けて、見方・考え方を働かせた学習が実現できるよう工夫されています。

続きまして、地図について、はじめに「東京書籍」の調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、観点1についてご説明いたします。判型がA4判に拡大され、広い範囲の地図を大きく表示でき、広い紙面を生かした資料が配置できるなど、多くの情報を掲載できるよう工夫されています。また、巻頭に地図記号や索引の使い方など地図帳の活用方法が掲載されており、地図が使いやすいように工夫されています。

観点2についてご説明いたします。地理的分野の学習のほかに、歴史的分野、公民的分野の学習とも連携した資料も掲載され、社会科の授業で活用できる資料が多数取り上げられています。また、随所にキャラクターの問いを設けて、「社会的な見方・考え方」の視点を持たせ、思考をより深められるように工夫されています。

最後に「その他」についてご説明いたします。QRコンテンツが随所に配置され、世界の各州や日本の各地方に関連する地図や資料などのデジタルコンテンツが閲覧できるように工夫されています。また、高さの表し方が立体的に示されていて、土地の高低を視覚的にとらえられるように工夫されています。

次に、「帝国書院」の地図についてご説明いたします。

はじめに、観点1についてご説明いたします。主体的に学習に取り組むための問い「地図で発見！」が随所に設けられ、地図活用の技能が身に付けられるように工夫されています。また、巻頭の地図帳の構成や方位、地図記号、縮尺、索引の使い方など、地図帳の基本的な見方や使い方がわかりやすく解説されています。

次に、観点2についてご説明いたします。「地図で発見！」は「社会的な見方・考え方」を働かせて考えるような問いになっており、思考力、判断力、表現力の育成につながるよう工夫されています。また、世界のページでは、世界各地と日本とのつながりを示した資料「日本とのつながり」を設けて、多面的・多角的に世界を見る視点が養えるよう工夫されています。

最後に「その他」についてご説明いたします。各州には、イラストを配置した鳥瞰図があり、地域の特色を視覚的にとらえ、大観できるとともに、興味や関心を高めて主体的に学習に取り組めるよう工夫されています。また、印刷が鮮明で図・写真とも細かな文字まで読み取りやすくなっています。

以上で説明は終わりでございます。ありがとうございました。

(議長)

ありがとうございました。

ただ今の説明につきまして、ご質問はいかがでしょうか。

ご質問される前には、地理的分野なのか地図なのかというところを先に言っていて、ご質問をお願いしたいと思います。

お願いします。

(委員)

地理的分野の方で、帝国書院の説明で、白地図を用いながらとありましたが、他の教科書には白地図はないのでしょうか。

(専門員長)

特に、巻末のところに帝国書院はあるのですが、必要に応じてコンテンツの方に白地図があったりするものもあります。帝国書院は地図を作っている会社でもあるので、よりその白地図をPRするというところで全面に出しているところでございます。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他、いかがでしょうか。

お願いします。

(委員)

地理と地図の両方に関わるものなのですが、発行者に共通するところも

あるし、それぞれ少し違うものがあると思うのですが、同じ発行者の教科書を使った方が授業する上で子どもたちに教えやすいものがあるのか、別々の会社であっても、その本の特徴を活かして別々のものを選んだとしても、子どもたちにはしっかり伝わるものなのか、教えやすいかどうか教えていただきたいと思います。

(専門員長)

今のところ東京書籍と帝国書院の2者だけが地図帳を作っているということなので、合わせればより効果的にはなると思うのですが、それぞれの教科書の中に地図の特徴がありますので、それを使っていく上では発行者が違ったとしても、教える上では特に問題はないかと考えております。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他にいかがですか。

お願いします。

(委員)

地理地図両方ですが、生徒にとって見やすいということはとても重要なことだと思うのですが、ユニバーサルデザインというのはいかがですか。

(専門員長)

地図は多少ですが、2者を比べると色合いが違います。ちょっと帝国書院の方が濃いめで、東京書籍の方が薄めになっている。どちらもユニバーサルデザインなので、やはり濃いめの方がいいという方と、薄めの方がいいという方もいるので、その辺はちょっとあると思いますし、写真は比較的どの会社も大きく掲載されていて見やすくなっていて字も結構大きく書いてあるので、その辺はどの会社も考慮されているのかなというような感じは受けます。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他、いかがでしょうか。

お願いします。

(委員)

地図で、日本と世界の扱いについての違いというか、2者では何か違いがあるのですか。扱い方の違いは。

(専門員長)

大きな違いは特にないので、ページ数もそんなに変わりはありませんので、扱いの上では日本も世界もそんなに大きな違いはないと思います。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他、いかがでしょう。よろしいでしょうか。

それでは専門員長、ありがとうございました。以上で地理的分野、地図に関する質疑を終了します。

(議長)

次に、数学科の専門員長を入室させてください。

(議長)

よろしくお願いします。

(専門員長)

私は、数学科専門員長を務めます、富士見市立水谷東小学校、校長の森です。

これより、数学科調査研究の結果を説明いたします。数学科では、7者について調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、1「知識及び技能を習得させ、思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫」、2「学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫」、3「数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫」、4「その他」の4つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書の通りです。

1者目、「東京書籍株式会社」について調査研究結果を観点に沿って報告いたします。

1の観点については、内容が区切りの良いところで、見開きでまとまっているわけではないのですが、他者の教科書よりも文字が大きいので、見やすくなっています。

2の観点につきましては、章末の、「ふり返しレポート」で、小章の学習ができるようになったことや、以前に学習したこととの違いなど、絞った課題をレポートにまとめる学習をするようになっています。解き方の手

順や知識などの学習内容の確認については、各節の終わりの「学びを振り返ろう」で設定されています。

3の観点につきましては、登場人物の会話から生徒の多様な考え方やヒントをつかむことができるようになっていきます。

その他の観点については、QRコードからアクセスするコンテンツが豊富です。また、「MATH CONNECT」という考え方で、そのときに学習している内容を、身の回りや既習事項やデジタルコンテンツとつなげています。それらとのつながりを生徒が確認して、興味関心を高めたり、学びを広めたり深めたりすることができるようになっていきます。また、近似値と平方根の章で、有効数字と相似の利用について、それぞれの学習に適した章の学びとなっています。

2者目、「大日本図書株式会社」について観点に沿って報告いたします。

1の観点については、「例」で、2種類の解き方を並べている解説が多く、それらを比較して効率的な解き方を選ぶ判断力を養うことができるようになっていきます。また、「例」に小見出しがついているので、学習内容が明確になっています。

2の観点については、章末の「章をふり返ろう」で、計算等の問題と学びのふり返りを記述させる問題の両方で、章の学びをふり返ることができるようになっていきます。

3の観点については、数学的活動の過程が、ページの端に「問題を見出そう」「解決の仕方を探ろう」と目立つ色で視覚的に記されていて、生徒が問題解決の段階を意識しながら取り組むことができるようになっていきます。

その他については、「社会にリンク」では、各職業で活躍している人へのインタビューを掲載しています。そこでは、仕事の中で数学が役に立っていることを知らせて、生徒の興味関心を高めたり、学びを広めたりすることができるようになっていきます。

3者目、「学校図書株式会社」について報告します。

1の観点については、解答例に罫線表示が多く、生徒がノートを取るときも手本となります。特に、分数や図形など、2行以上の罫線にまたがって記述するときにも、この手本通りに記述することで、思考段階が分かりやすい、整理された解答となります。また、各領域の始めの「ふりかえり」では、それぞれの領域に関連する既習事項をまとめてあり、これを読んで素早く確認することができるようになっていきます。

2の観点については、各章末の「〇〇を学んで」では、できるようになったことをチェック式で確認して、さらに学んでみたいことを記述できるようになっています。

3の観点については、数学的活動の過程が、ページの右側に、「問題を見つけよう」「予想しよう」などと視覚的に記されていて、生徒が活動の段階を意識しながら取り組むことができるようになっていきます。SDGsの課題にはマークをつけてあります。その中には考えてみたくなるような課題もあります。

最後に、その他については、近似値が、平方根の章と相似な図形の章に、有効数字が、相似な図形の章にあります。近似値と有効数字の、それ

ぞれの学習に適した章での学びとなっています。

4者目、「教育出版株式会社」について報告します。

1の観点については、「例」で、同種類の2パターンの問題をセットで解説しているため、同種類の問題を一度に確認できます。また、「例」に小見出しがついているので学習内容が明確です。章の前にある「〇〇を学習する前に」では、問題を解きながらそれぞれの章に関連する既習事項も確認ができるようになっています。

2の観点については、各章末の「学習のまとめ」では、穴埋め式で学習内容をふり返り、記述式で学習感想をまとめるようになっています。その学習感想には、例が載せてあります。身の回りのこととのつながりや、さらに学習してみたいことなどです。例を示すことで、生徒の学習の振り返りが進むようになっていることとなります。

3の観点では、数学的活動の過程が、ページ右側に、「問題を見出す」「見通しを立てる」「振り返る」と、「学びのプロセス」として視覚的に記されていて、生徒が問題解決の段階を意識しながら取り組むことができるようになっています。

その他については、巻頭で「大切にしたい数学的な見方・考え方」が紹介されており、問題解決の場面で生徒がこのページを振り返ったり、教員が教室に掲示しておいて生徒が見ることができるようにしておいたりして、思考の過程を確認しながら問題解決の学習が進むことができるようになっています。

5者目、「株式会社新興出版社啓林館」について報告します。

1の観点については、「例」では、同種類の2パターンの問題をセットで横に並べて解説していることも多いので、同種類の問題を比べながら確認しやすくなっています。「例」に小見出しがついているので、学習内容が明確です。また、例と問いの間に例題を設定し、生徒が問いを解くときにつまづきそうなことを、前もって解説しています。例から問いまでの学習の流れが丁寧になっています。「章末問題」は4ページもあり、問題数が多いです。また、「2次方程式の利用」の解の意味に関する学習では、解に平方根が含まれている場合も範囲を確認する問題まであり、深い学習が丁寧に行えるようになっています。

2の観点については、章末の「あしあと」で、わかったことやできるようになったことなど、章の学習の振り返りの例が記述されています。例を示すことで生徒の学習の振り返りが進むようにしています。また、学習内容の確認については、章末問題を解きながら、それぞれの問題の右側の説明を読んで確認することができます。理解が不十分な場合には、この説明に示してあるページに戻り、復習することができるようになっています。

3の観点については、問題解決の過程を「ステップ」の番号と小見出しで示しています。「状況を整理し、問題を設定しよう」「解決の見通しを立てて、問題を解決しよう」などの小見出しの記述により、問題解決の段階を自然と意識しながら学習できるようになっています。また、「決まりを見つける」「逆向きに考える」などの表示で、生徒の思考や学習活動をサポートしています。

その他については、その章での学習を広げる「数学ライブラリー」やSDGsに関連する題材が、生徒の数学的な興味関心を高めるようになっています。

6者目、「数研出版株式会社」について報告します。

1の観点については、「例」で、同種類の2パターンの問題をセットで解説しているのので、同種類の問題を一度に確認することができます。

「例」に小見出しがついているので、学習内容が明確です。各章の始めの「ふりかえり」では、それぞれの章に関連する既習事項をまとめてあり、これを読んで、その後、このページの右側の問題を解くことで、理解度を確認することができます。丁寧な章の入りになっています。

2の観点については、章末で学んだことをチェック式や記述式で振り返るところはありませんが、章末にある「学んだことを活用しよう」では、カレンダーの問題や、サッカーのシュートの難易度の問題などを設定して、生徒の数学と生活を結び付けようとしています。

3の観点については、登場人物の会話から解き方のヒントをつかむことができるようになっていきます。

4のその他については、身の回りの数学を紹介している「数学旅行」では、生徒の数学的な興味関心を高める内容を載せています。

7者目、「日本文教出版株式会社」について報告します。

1の観点については、「例」で、同種類2パターンの問題を横に並べてセットで解説していることが多いので、同種類の問題を比べながら一度に確認することができます。「例」に小見出しがついているので、学習内容が明確です。章の始めにある「次の章を学ぶ前に」では、問題を解いたり、このページの右側にある解説を読んだりすることで、この章に関連する既習事項の確認ができるようになっていきます。

2の観点については、「学びに向かう力を育てよう」で、巻末の「ふり返しシート」を活用するなどして、主体的に取り組む態度を育てる学習活動がしやすくなっています。章末では、「できるようになったこと」や「もっと知りたいこと」などをまとめる学習をするようになっていきます。

3の観点については、問題解決の過程を番号と小見出しで示しています。「見通しを持とう」「考えよう」「話し合おう」などの小見出しの記述により、問題解決の段階を自然と意識しながら学習することができるようになっていきます。巻末についています「対話シート」で、協働的な学習が行われやすくなり、考え説明する能力の育成につながるようになっていきます。PPDAC、問題→計画→データ→分析→結論→問題による問題解決の方法が示されており、批判的な考察や判断をすることで、考えが深まるようになっていきます。

その他については、「ふり返しシート」で、主体的に取り組む態度を教師が評価しやすくなり、その結果を授業で生かしやすくなることが考えられます。

説明は、以上でございます。

(議長)

ただいまの数学科の調査結果につきまして、ご質問はございますでしょうか。

お願いします。

(委員)

2点お伺いしたい。1点は、デジタルコンテンツは数学科と相性がいいと思うが、どういった学習ができるのか、もう1点は章末の問題数だとか難しさとかに違いがあるのか。

(専門員長)

まず、QRコードについてです。QRコードは各教科書とも作図の手順が示されている動画であったり、それから変化の様子がわかったり、図形を変形するのがやりやすくなっていたり、それから発展問題と既習事項の問題の振り返り等が確認できるようになっています。

また、章末については、教科書が案外、問題数の差、難易度の差があるという風に考えています。なので、その辺は教科書によって使用するときに補っていくのだと思います。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他、いかがでしょうか。

お願いします。

(委員)

例題のところ、同種類の2パターンの問題が多いようですが、それ以外で工夫されているような教科書はあるのでしょうか。2パターンもしくは3パターンとか、それ以外の方法とか。

(専門員長)

2パターンの問題で示しているのが一番多いですが、教科書会社の中では、同種類ではなく、同じ一文で解き方の違うものを示してあったり、それから一文を詳しく書いてあったりするのがあります。ここで書いてある同種類2パターンというところは同じような内容ではあります。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他、いかがでしょうか。

お願いします。

(委員)

小学校の算数から中学校の数学というような形で、かなり内容的に濃くなってくると思いますが、その辺は各者とも接続、関連的なものというのが示されているところはあるのでしょうか。

(専門員長)

全者が第一学年の教科書を中心に、小学校の算数からの接続を意識した内容があります。教科書の巻頭にあるとか、あとは目次に入っていたり、それから各領域の始まりでつないであったり、だいぶ丁寧になっているように感じています。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他にいかがでしょうか。

お願いします。

(委員)

2点お願いします。1点目は、学びに向かう力という2つ目の観点のところでは、ふり返りが結構強調されていると思うのですが、ふり返りの質を高めるための工夫というのは何かあるのでしょうか。2つ目ですが、子どもたちが関心意欲を増したり、また社会につながる題材であったり、題材の工夫というのは、どの辺で見られるのでしょうか。

(専門員長)

振り返りの工夫については、振り返るべき内容を問題に記してあったり、それから振り返ったときに分かりやすくなるように、例に小見出しがついていたり、例えば計算の $a \times 2 \text{ 乗} + b = 0$ の形とか、それから二次方程式の解を使って解くとか、そういう小見出しがはっきりしていると、振り返るときに見返しやすいなというふうに感じております。

また、題材の工夫については、数学の教科書にてSDGsについて、数学を用いて確認するのが多いです。また、職業の中で数学を使って働いているというのをアピールしているところも多くて、興味関心が高まるような感じになっていると思っています。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。
それでは、以上で数学についての質疑を終了いたします。

(議長)

続いて、理科の専門員長を入室させてください。

(議長)

それでは、説明をお願いします。

(専門員長)

皆さま、こんにちは。私は、理科専門員長を務めます、三芳町立三芳東中学校、校長の宇佐見でございます。

これより、理科調査研究の結果を説明いたします。理科では5者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、観点1「基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫」、観点2「思考力、判断力、表現力等を育成する工夫」、観点3「学びに向かう力を育成するための工夫」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりでございます。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点到に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、観点1についてご説明いたします。既習事項や資料動画、章をまたいだ参照ページが随所に示され、重要語句や基本事項を確認し、体系的に理解できるようになっておりますが、注釈の参照ページがこれから学習する内容になっている点について、工夫されるといいと思います。

次に、観点2について、実験・観察において「理科の見方・考え方」・「結果の見方」・「考察のポイント」を示し、科学的に探究するために必要な視点を提示しています。

最後に、観点3についてご説明いたします。「問題発見」「課題」「仮説」「構想」「観察・実験」「分析解釈」「まとめ」「活用」が明確に示されており、学びの見通しを立てることができるようにしてあります。

次に、「大日本図書」についてご説明いたします。

はじめに、観点1についてご説明します。探求の過程において各学年で特に重視する項目をマークで示し、課題を明確にして学習を進められるようにしてありますが、「基本操作」以外の二次元コードが無いため、ICT活用の面で工夫があるとよいです。

次に、観点2について、「問題を見つけよう」「話し合おう」「結果から考えよう」等で話し合いのポイントが人やキャラクターの図の吹き出しで考えやすいように示されています。

最後に、観点3についてご説明いたします。単元末に「探究活動」を設定し、単元に関するテーマを紹介して生徒の興味・関心が持ちやすいテーマで探求を進めることができるようになっています。

次に、「学校図書」についてご説明いたします。

はじめに、観点1についてご説明いたします。すべての授業時間ごとに「この時間の課題」「まとめ」「この時間の見方」「考え方」があり、見通しをもって学習に取り組めるようになっていますが、章末問題等がない

<p>ため、知識の定着を図るための工夫があるとよいです。</p> <p>次に、観点2について、各単元に「探究」が設定されており、仮説を検証するための「計画」や「結果から考える」場面を設け、科学的思考力の向上を図られています。</p> <p>最後に、観点3についてご説明いたします。各単元のはじめに「Can-Do List」を設け、単元の学習内容に見通しをもって学習に取り組めるようになっていきます。</p> <p>次に、「教育出版」についてご説明いたします。</p> <p>はじめに、観点1についてご説明いたします。「要点をチェック」・「基本問題」・「要点と重要用語の整理」を設け、単元で学習した内容を確認し、基礎学力の定着ができるようになっておりますが、実験器具の使い方の動画はありますが、実験動画も見られるとよいです。</p> <p>次に、観点2について、生徒が意見交換をしたり、議論したりするイラストを使って考えを深め、「話し合おう」で生徒一人一人が考えを表現することができるようになっていきます。</p> <p>最後に、観点3についてご説明いたします。「ハローサイエンス」で考える場面が設けられ、生徒自らが持続可能な社会を意識できるように工夫されています。</p> <p>最後に、「啓林館」についてご説明いたします。</p> <p>はじめに、観点1についてご説明いたします。二次元コードからアクセスできるデジタルコンテンツで実験器具の操作方法が確認できるようになっておりますが、問題演習や実験動画の確認がICTを利用して行えるようにするとよいです。</p> <p>次に、観点2について、各単元に「探Q実験」と、単元末に「みんなで探Qクラブ」で重点的に探究の過程を取り組み、科学的な探求する力が身につけられるようになっていきます。</p> <p>最後に、観点3についてご説明いたします。「学ぶ前にトライ！」で単元を貫く本質的な問いが設定されており、生徒が見通しをもって学習を進めることができるようになっていきます。</p> <p>説明は以上でございます。</p> <p>(議長)</p> <p>今、理科についての説明をいただきました。 ご質問は、いかがでしょうか。 お願いします。</p> <p>(委員)</p> <p>実験観察ができるような事物の現象について、ICTを使って工夫されている教科書はありますか。もう一つ聞いてもいいですか、発展的な課題についても章末で扱っている教科書はありますか。</p> <p>(専門員長)</p> <p>まず、ICTの活用につきましては、各者ともかなり力を入れていただいておりますが、なかなか実際に見られないような実験をそういったコンテンツの中から見られるような形を取っている会社がございます。</p>
--

それから、章末問題につきましては、発展的なところは、どの会社も工夫した問題を出していただいているかと思います。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他、いかがでしょうか。
お願いします。

(委員)

今の質問がありましたけれども、ICTを使うと、ほぼ理科の実験とか何かの結論とかやり方についてはできるのですけれども、逆にどの教科書も、実際に生徒たちが行う観察とか実験の数というのは、どの会社も同じくらいあるのでしょうか。

(専門員長)

実際に観察や実験は子どもたちが理解を深める上、あとは探求する力をつける上で、どの会社も同様に、数的にはほぼ変わりなく、提示していただいているというふうに考えております。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他、いかがでしょうか。
お願いします。

(委員)

特に実験に関する安全への配慮というのは非常に重要だと思うのですが、それについての取り扱いが教科書によって違うように思っているのですが、その辺りは指導という観点でよろしいでしょうか

(専門員長)

観察実験における安全面の配慮につきましては、どの教科書会社も徹底されているなというふうに感じております。その表現の仕方で文字の色が違ったりとか、そういったところで違いはあるのですが、やはり、抑えるべき事故が起こらないようにというのは、各者とも配慮いただいていると考えております。

(議長)
よろしいでしょうか。

(委員)
はい。

(議長)
他、いかがでしょうか。
お願いします。

(委員)
理科の話は、シンプルに「何で」とか「どうして」という疑問をもつところ
が大切だと思うのですけれども、そういった観点での各者の工夫はどう
ですか。

(専門員長)
今委員さんがおっしゃった通り、各者ともやはり、最初に課題の前に
疑問をもつところは、提示していただいているというふうに感じてお
ります。そういったところで、導入の部分を非常に重視されている教科書
会社さんが多いと感じているところでございます。

(議長)
よろしいでしょうか。

(委員)
はい。

(議長)
他、いかがでしょうか。よろしいですか。
それでは、以上で、理科についての説明を終了とさせていただきます。

(議長)
それでは、ここで一旦休憩とさせていただきたいと思います。
15分間の休憩で、3時に再開いたします。

(議長)
会議を再開させていただきます。
音楽科の専門員長を入室させてください。

(議長)
それでは、説明をお願いします。

(専門員長)
皆さま、こんにちは。私は、音楽科専門員長を務めます、三芳町立上富小学

校、教頭の熊田でございます。

これより、音楽科調査研究の結果を説明いたします。音楽科では2者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、1「思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫」、2「音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫」、3「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質、能力を育成するための工夫」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、「教育出版」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。それぞれ3点ずつあります。

はじめに、観点1「思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫」について説明いたします。1点目は、「Active!」と題し、音楽を形づくっている要素に着目させ、楽曲の特徴を調べたり、比較したりすることで、学習を深められるとともに、調べた学習内容を交流できるページが掲載されています。2点目は各楽曲に課題が提示されており、表現の工夫を考え、思いや意図を生かして表現できるよう工夫されています。3点目、器楽教材では、「合わせて演奏しよう」と題して、他者と協働し、自分の思いや意図を相手に伝えながら楽しく演奏できるよう工夫されています。

次に、観点2「音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫」について、説明いたします。1点目、歌唱教材では、表現方法を工夫し歌唱できるよう、音楽用語の記号が示され、また、同声合唱から混声合唱へと系統的に学べるよう工夫されています。2点目、創作活動「音のスケッチ」では、テーマを分かりやすく提示するとともに、活動の手順が具体的に示されています。また教科書に直接書き込むことができ、系統的に学びが進められるようになっており、無理なく課題に取り組める工夫がされています。3点目、器楽の「名曲旋律集」では、鑑賞教材や歌唱教材に関連した旋律の楽曲が掲載されており、これまでに学習した楽曲に親しみながら基礎的な技能を身に付けられる工夫がされています。

最後に、観点3「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫」についてご説明いたします。1点目、我が国やアジアの音楽をはじめ、世界の様々な芸能や音楽等に触れ、それぞれの国の音楽の特徴や音楽の多様性を学ぶ工夫がされています。2点目、「コンピュータと音楽」では、音楽との関わり方や著作権等について具体的に示し、生活や社会における音楽の意味や価値を考えられるように工夫されています。3点目、器楽教材では、音楽文化と豊かに関われるよう「吹く楽器」としてリコーダー、篠笛、尺八、「弦楽器」として、ギター、箏（そう）、三味線など、世界の楽器や、我が国の伝統的な楽器を種類別に掲載し、楽器の特徴や音色、響きの違いを学習できるよう工夫されています。

次に、「教育芸術社」についてご説明いたします。

はじめに、観点1「思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫」について説明いたします。1点目、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせて取り組めるよう、各教材で、音楽を知覚・感受する際の焦点が示されていたり、音楽を形作っている要素が譜例と関連付けながら示されていたりする工夫がされています。2点目は、学習課題を明確に把握するとともに、順序だてて思考し、見通しをもって学習に取り組む内容として「学びのコンパス」が示され、ワークシートを活用することで考えを整理しながら学習を進める工夫がされています。3点目、器楽教材、アンサンブル「合わせて演奏しよう」では、他者と協

働し、自分の思いや意図を相手に伝えながら楽しく演奏できるよう工夫されています。

次に、観点2「音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫」について、説明いたします。1点目、各教材に、学習目標の記載とともに、学習目標に迫るための具体的な学習活動が明記されており、基礎的な技能を身につける工夫がされています。2点目、創作活動「My Melody」や「Let's Create!」では、課題や条件、具体的な手順が教科書の見開きページで記載されており、一連の流れで創作活動に取り組めるよう工夫されています。3点目、器楽教材では、リコーダーの楽曲がソプラノリコーダーとアルトリコーダーの両方が、同じ運指で学習できるよう工夫されています。また、平易な練習曲から段階を追って練習できるようになっています。日本の楽器に関しては、写真や図、演奏方法等が多彩に掲載され、基礎的な技能を身につけられる工夫がされています。また、ほとんどの活動にQRコードが掲載され、個別最適な学びにつなげられる工夫がされています。

最後に、観点3「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫」についてご説明いたします。1点目、我が国の伝統音楽や伝統芸能等について親しむことができるよう、体験コーナーや演奏者のインタビュー、アドバイスが掲載されています。2点目は音楽と生活や社会、文化との関わりについて、著作権やSDGsの視点で示すとともに、音楽がもつ役割や、仕事の中での音楽等を示し、生活の中にある様々な音や音楽へ関心を持てるよう工夫されています。3点目は、各界の著名人などのメッセージ等を掲載し、楽器や演奏に対する思いに関心をもたせたり、生活や社会の中の音や音楽との関わりについて関心をもてたりすることができるよう工夫されています。

説明は以上でございます。

(議長)

今、音楽科についての説明がございましたが、音楽、器楽に分けてご質問いただけたらと思います。いかがでしょうか。

お願いします。

(委員)

2者ともQRコードが掲載されていると思うのですが、何曲ぐらい実際に聞けるようになっていきますか。

(専門員長)

全部を聞いたわけではないのですが、各楽曲のところにQRコードが載っておりまして、こちらからそれぞれの楽曲が聞けるようになっております。曲数については、教育芸術社の方が若干多めとなっております。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他、いかがでしょうか。
お願いします。

(委員)

日本の楽曲と外国の楽曲の扱う量は、音楽と器楽とそれぞれ違いがあるのか、また、内容の扱いにも違いがありますか。

(専門員長)

両者とも数についてはほとんど変わりがございません。また、扱いに関しましても、子供たちの耳に馴染んでいる楽曲が掲載されております。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他、いかがでしょう。よろしいでしょうか。
それでは、以上で音楽科についての質疑を終了いたします。ありがとうございました。

(議長)

続いて、美術科の専門員長を入室させてください。

(議長)

それでは、説明をお願いします。

(専門員長)

皆様、こんにちは。私は、中学校美術科専門員長を務めます、ふじみ野市立鶴ヶ丘小学校、教頭の津野でございます。

これより、美術科調査研究の結果を説明いたします。美術科では3者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「生徒の表現力を伸ばし、創造性を培うことができる工夫」、「生活や社会と豊かに関わる態度を育成する系統性の工夫」、「個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるための工夫」の3つを設定いたしました。その結果につきましては、お手元の報告書のとおりでございます。

それでは、「開隆堂出版」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「生徒の表現力を伸ばし、創造性を培うことができる工夫」についてご説明いたします。まず、それぞれの活動で、主にどのような力を身につけることができるか、小見出しを付けている工夫により、学びの目標が明確化さ

れております。また、参考作品の「作者のことば」に生徒の視点が記載されているため、造形的な視点を捉え、発想・構想を練るためのヒントとなっております。巻末の「学びの資料」が充実しており、生徒の興味・関心を高め、主体的に学ぶことができるよう工夫しております。さらに、題材「自分と向き合う」では、内面との向き合い方について多く触れることで、自画像を描くことへの本質にアプローチしやすいように工夫しております。

次に、「生活や社会と豊かに関わる態度を育成する系統性の工夫」について、ご説明いたします。まず、現在活躍しているアニメーション監督の、作品に向かう姿勢を取り上げており、身近な映画が美術教育とつながっていることを理解することができるという工夫がございます。また、巻末の「学びの資料」に「展覧会を作る」「持続可能な未来へ」「美術と私と社会」を掲載することで社会と美術のつながりに対する関心を高める手立てが示されております。さらに、巻末の「美術と共に生きていく」では、美術が人生や世界と関わっていることに触れております。

最後に「個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるための工夫」についてご説明いたします。まず、QRコード数が全41点。コンテンツの中には、ワークシートもあり、作品を制作する前に、必要な生徒がワークシートを活用し、学習の見通しをもつこともできます。さらに、協働的な学びで学習ができる題材については、生徒が話し合いをしている様子の写真を掲載しており、鑑賞の観点や手順が示されております。

次に、「光村図書」についてご説明いたします。

はじめに「生徒の表現力を伸ばし、創造性を培うことができる工夫」についてご説明いたします。まず、題材の「表現」の項目で、制作工程を段階的に示し、別冊「資料」へつなげることで、技能や表現の理解ができるよう工夫しております。また、制作過程が見える「みんなの工夫」では、アイデアスケッチに作者の思考のプロセスを紹介しており、インタビュー動画と合わせて紹介することで制作意図や内面性を大切にすることを伝えております。QRコンテンツでは、書き込みツールの機能があるものが7点ございます。例えば、レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晚餐」に線を引き、構図を確認したり、拡大して細部を鑑賞したりできるなど、生徒に新しい鑑賞体験をさせることができると考えております。さらに、題材「今の自分、これからの自分」では、多様な生徒作品が紹介されており、印象的な副タイトルを元に鑑賞を深める手立てがなされております。

次に、「生活や社会と豊かに関わる態度を育成する系統性の工夫」について、ご説明いたします。まず、1及び2・3の両教科書とも「うつくしい！」からはじまり、「うつくしい！」で終わるという工夫がございます。美術の根本的な問いかけが、生涯を通して探求できるよう提案されております。また、言語活動が充実するように、作家の作品鑑賞の問いかけが授業の導入に提示されております。全編を通して鑑賞の視点が明確であり、鑑賞を通して美術への理解を深める手立てがございます。さらに、SDGs、道徳科とのつながり、他教科とのつながりがマークとして題材に提示されております。

最後に「個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるための工夫」についてご説明いたします。まず、QRコード数が全126点。特に生徒作品が充実しており、約900点の作品を参考にできます。また、それぞれの作品に作者の言葉が掲載しており、作者の思いや工夫を感じることができます。さ

らに、鑑賞の題材では、生徒同士の対話が生まれるような「問い」を示しているため、それをヒントに協働的な学びを充実させることができると考えます。

最後に、「日本文教出版」についてご説明いたします。

はじめに「生徒の表現力を伸ばし、創造性を培うことができる工夫」についてご説明いたします。まず、各題材において「表現のヒント」で発想・構想の手立てや、技能面の補足を示すという工夫が見られます。また、題材に対応した技法資料を各題材の紙面にQRコード付きで紹介しているため、細かい表現方法の理解ができるように工夫されております。巻末の「学びを支える資料」において、多様なテーマに沿って豊富に紹介されているため、細かな技能を理解できると考えます。さらに、題材「わたし自身を見つめて」では、印象的な自画像を用いて問いかけたり、自己分析シートを紹介して探求を促したりするなど、自分の内面や心情の理解が大切であることに触れております。

次に、「生活や社会と豊かに関わる態度を育成する系統性の工夫」について、ご説明いたします。まず、表紙の作品を用いて、鑑賞の授業を実施することで「美術との出会い」の印象を強くすることができると考えます。また、現代アートや現役アーティスト・著名人を多く紹介することで、美術と社会のつながりについて実感をもたせる工夫がございます。さらに、題材「あの日を忘れない」では、自然災害や戦争が題材の作品に触れ、美術が持つ社会への発信力を示しております。

最後に「個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるための工夫」についてご説明いたします。まず、QRコード数が全93点。全題材に授業用の動画「学びのはじめに」が収録しており、生徒一人一人の関心や意欲を高める工夫がされております。また、「発想・構想の手立て」として、協働的な学びの方法が提示してあるとともに、造形活動中に交流する写真を掲載し、協働的な学びの充実を図る工夫がなされております。

説明は以上でございます。

(議長)

それでは、美術に関しまして、ご質問はいかがでしょうか。
お願いします。

(委員)

どの教科書も内容は充実していると思うのですが、技能の基本でありますデッサンの基本的な仕方とか、絵の具の使い方とか、表現することも大事ですが、そういった基本的な技能についてはいかがでしょうか。

(専門員長)

3者とも、そういった技能を高めるための資料というのが掲載されております。開隆堂と日本文教出版につきましては、「学びの資料」ということで、教科書の最後にご紹介しています。光村図書に関しましては、別冊が一冊用意してあります。そちらも技能と高めるという工夫がされております。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは以上で美術科の質疑を終了いたします。専門員長はありがとうございました。

(議長)

続いて、保健体育科の専門員長を入室させてください。

(議長)

それでは、説明をお願いします。

(専門員長)

皆様、こんにちは。私は、保健体育科専門員長を務めます、ふじみ野市立花の木中学校、教頭の町田でございます。

これより、保健体育科調査研究の結果を説明いたします。保健体育科では4者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「QRコードの内容・活用のしやすさ」、「資料の使いやすさ」、「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは「東京書籍株式会社」について、調査研究結果を観点に沿ってご報告を申し上げます。

はじめに、観点1「QRコードの内容・活用のしやすさ」についてご説明いたします。1つ目は、デジタルコンテンツが充実しており、動画シミュレーションがあるのが良い。2つ目は、單元ごとに短めのわかりやすい動画解説があり、学習の予習、復習ができることがよかったです。

次に、観点2「資料の使いやすさ」についてご説明いたします。色が落ち着いており、かつ色彩が鮮やかで、見やすさは安定しておりました。教科書に登場する2人の独り言が、小学校や実習生活と繋げてくれていて、生徒にとって理解しやすいと感じました。3点目は、写真や図、表、グラフがバランスよく配置されており、分かりやすい構成となっております。

最後に、観点3「その他」についてご説明いたします。巻末のスキルブックでは普段の生活に活かせるような内容が載っておりました。2つ目はUDフォントです。文字が大きく、見やすく、ルビが多いと感じました。

次に「大日本図書株式会社」についてご説明いたします。

はじめに、観点1「QRコードの内容・活用のしやすさ」についてご説明いたします。1つ目は、デジタル教科書のリンクが充実していて、一つのサイトで一気に見ることができる。発表形式での授業を参考にしやすい。2つ目は、章ごとのまとめや復習問題で構成されており、知識の定着を図ることができる。

次に、観点2「資料の使いやすさ」についてご説明いたします。写真は

少ないが図や表と本文のバランスが良い構成となっておりました。ページ構成が良く、右ページに資料が統一されて大変見やすく感じました。学習のまとめでは、重要な言葉が整理されていて大変見やすかったです。

最後に、観点3「その他」についてご説明いたします。1つ目は、毎時間の内容に「活用して深めよう」のコーナーを設置しており、思考力を深めるための工夫がなされておりました。2つ目は、キャリア教育としてスポーツ選手の中学校時代などのインタビューを掲載していて、生徒の興味をひくものとなっておりました。

次に「株式会社大修館書店」についてご説明いたします。はじめに、観点1「QRコードの内容・活用のしやすさ」についてご説明いたします。QRコードの数がとても多かったです。単元ごとの動画コンテンツ、復習クイズ形式、ワークシートで構成されているので、知識の定着が図られると感じました。

次に、観点2「資料の使いやすさ」についてご説明いたします。日常生活において活用することができる内容が数多く記載されておりました。また、資料のデータが最新のものが多かったです。写真は少ないが、図や表と本文のバランスが良い構成となっていると感じました。

最後に、観点3「その他」についてご説明いたします。UDフォントで、ユニバーサルデザインに配慮されていて、色使いもよく、また、ルビも多かったです。教科書の構成が3ステップ（つかむ、身につける・考える、まとめる・振り返る）で、分かりやすい構成でありました。

最後に「株式会社Gakken」についてご説明いたします。はじめに観点1「QRコードの内容・活用のしやすさ」についてご説明いたします。QRコードが多かったです。デジタル教科書とのリンクが充実していて、一つのサイトで一気に見ることができる。発表形式での授業の参考にしやすいと感じました。

次に、観点2「資料の使いやすさ」についてご説明いたします。口絵のデザインがポップ調で、イラストもかわいいため、生徒の興味も引くものと思われる。また内容も豊富でありました。「エクササイズ」「学びを生かす」で深い学びにつながると感じました。文章のほぼ横に資料があるので大変わかりやすいと感じました。

最後に、観点3「その他」についてご説明いたします。表紙が生徒の興味を引くものとなっておりました。文章はすべてUDフォントで、ユニバーサルデザインに配慮されておりました。章のまとめ、復習問題があるのが良いと思います。

説明は以上でございます。

(議長)

ただいまの説明について、ご質問はいかがでしょうか。
お願いします。

(委員)

AEDですとか、心肺蘇生法などについてのわかりやすさはいかがでしょう。

(専門員長)

各者とも教科書資料として詳しく載っておりました。また、QRコードで動画を開いてみても、手順を追って分かりやすく説明されておりました。

(議長)

よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。

お願いします。

(委員)

男子生徒と女性生徒の性教育の扱いについて、量的なものや工夫の違いというのはどうなっていますでしょうか。

(専門員長)

各者とも若干の差がありますが、概ね女性についての内容の量が多くなっております。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

若干の差があるということによろしいですか。

(専門員長)

はい。

(議長)

他にいかがでしょうか。

お願いします。

(委員)

今回、観点をこの3つにしたのには何か理由がありますか。

(専門員長)

私と他2名の専門員で話し合っただけで決めました。その2名の専門員は以前も同じような立場で研究をされていて、私が初めだったものですから、他の2名の専門員の意見を参考にしながら決めました。特に教科書においては、最近QRコードが大量に取り入れられておりますので、その点を1点目に挙げさせてもらいました。2点目の観点としては、生徒が興味・関心を高める教科書ということで「資料の使いやすさ」にいたしました。実際の授業では、本文よりも資料を読み取ることが多いと感じていますので、2点目に挙げさせてもらいました。以上です。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)
はい。

(議長)
他はよろしいでしょうか。
それでは以上で保健体育科の質疑を終了いたします。専門員長はありがとうございました。

(議長)
それでは続いて、技術科の専門員長を入室させてください。

(議長)
それでは、説明をお願いします。

(専門員長)
皆様、こんにちは、私は、技術科の専門員長を務めます、富士見市立本郷中学校、教頭の近藤でございます。

これより、技術科調査研究の結果を説明いたします。技術科では3者について調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「知識及び技能が習得されるようにするための工夫について」、「思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫について」、「安全教育への対応について」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは「東京書籍」について、調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「知識及び技能が習得されるようにするための工夫について」ご説明いたします。本教科書では、基礎技能に関する記述が丁寧で、ポイントや、安全・衛生面に関する記述など、生徒が主体的に学ぶことができるよう工夫されています。また、欄外にあるキーワードにより、課題が明確化されているところも優れていると思います。

次に、「思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫について」ご説明いたします。技術の見方・考え方から評価、改善・修正する活動が盛り込まれており、生徒が自分自身で課題解決の方策を構想できるように工夫されています。各領域で問題解決の手法が記されており、「振り返ろう」では、具体的に振り返りの方法の記述がされており、思考の深まりを促しています。しかも「考えてみよう」では、技術のみならず、防災や福祉など、社会的な課題や、社会科や家庭科などで学習したことと関連付けさせるなど、工夫が見られます。

最後に、「安全教育への対応について」ご説明いたします。巻頭に「作業を安全に楽しく進めよう」を設け、安全への意識を高めてから各実習に取り組めるように工夫されています。また、安全マーク、衛生マークをつけて生徒へ注意喚起を行っています。

次に「教育図書」についてご説明いたします。

はじめに「知識及び技能が習得されるようにするための工夫について」

ご説明いたします。理解しなければならない内容の多くが、写真で掲載されていたり、イラスト資料がページごとにあり、具体例を視覚的に理解できたりするように工夫されています。また、単元ごとにまとめ問題が記されていて、押さえるべき知識技巧を振り返ることができます。体験や実習を主体とした学習活動に特化しています。

次に、「思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫について」ご説明いたします。問題解決のプロセスをスモールステップで段階を追っており、思考の深まりを促しています。問題解決の流れを写真や図で示しており、解決策を具体的にイメージすることができるため、思考を深めることができます。また、「やってみよう」ではプラス面、マイナス面を比較検討することで、技術の社会的・経済的・環境的側面から技術を適切に評価し活用する能力と態度を育成しています。

最後に、「安全教育への対応について」ご説明いたします。巻頭に「各教室の特徴と安全」を設け、安全への意識付けを行い、安全に作業できるように配慮しています。列冊「スキルアシスト」では、作業手順や工具の安全な使用を示し、事故防止への配慮がされています。

最後に、「開隆堂」についてご説明いたします。

はじめに、「知識及び技能が習得されるようにするための工夫について」ご説明いたします。使用工具の説明が名称、使用法ともに丁寧に記載されているため、授業に活かしやすく、特に工具ごとに使用工具の写真を多用し、文章説明もわかりやすく指導しやすいです。最初に、切削の仕組みなど、知識事項をしっかりと押さえ、正確に効率よく切削の方法を提示するなど、個別かつスキルに応じた指導に対応しています。また、自主題材が多くあり、意欲的に知識及び技能の習得を図るように工夫されています。

次に、「思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫について」ご説明いたします。学習課題が「なぜ管理技術が必要か」、「どのように技術を最適化するか」など、広い視点から設定されており、技術についての考えを深める内容になっています。目標から振り返りまでの流れがスムーズで、生徒が見通しを持ち、主体的に思考できるように配慮されています。また、実験や体験活動を柱として、課題解決学習や広い視野で思考できるように配慮されており、内容の深まりが期待できます。

最後に、「安全教育への対応について」ご説明いたします。巻頭に「作業の安全」を設け、個々の学習場面と関連付けるなど工夫が見られます。安全について、安全な行動には○印、危険な行動や環境であれば×印を書かせて、安全への意識を高めさせる工夫を行っています。また、随所に黄色が目立つマークを使って注意喚起を行っており、実践的で効果的な工夫を行っています。

説明は以上でございます。

(議長)

ただいまの技術の説明につきまして、ご質問はいかがでしょうか。

(委員) (質問等なし)

(議長)

よろしいでしょうか。

それでは以上で技術の質疑を終了いたします。専門員長は、ありがとうございました。

(議長)

続きまして、家庭科の専門員長を入室させてください。

(議長)

それでは、説明をお願いします。

(専門員長)

皆様、こんにちは。私は、技術家庭科家庭分野の専門員長を務めます、富士見市立関沢小学校、校長の関口でございます。

これより、中学校技術家庭科家庭分野の調査研究の結果を説明いたします。家庭分野では「東京書籍株式会社」「教育図書株式会社」「開隆堂出版株式会社」について調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして3点設定いたしました。1つ目に「問題を見出し、課題を設定できるような資料」について、2つ目に「有効活用できるデジタル教材」について、3つ目に「その他」としました。その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

家庭科におきましては、A家族・家庭生活、B衣食住の生活、C消費生活・環境の3領域からなっております。

それでは、「東京書籍株式会社」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「問題を見出し、課題を設定できるような資料」についてご説明いたします。総ページ数は298ページでございます。目次の工夫といたしまして「自ら生活をつくる」「消費者として意思決定する」「ともに生きる」という3つの構成になっております。A家族・家庭生活については、54ページとなっており、家庭の仕事と生活時間の内容については、漫画で知られている家族、例えば、クレヨンしんちゃんの家族を例にとり、生徒同士に共通理解を図りながら課題設定を図るよう促しております。B衣食住の生活は139ページからなっており、中ほどにある6つの基礎食品群の分け方の資料は、厚紙になっており非常に活用しやすくなっております。食品の写真や実物大表記があるなど、生徒が実感しやすくなっております。衣服につきましては、まつり縫いやスナップつけについて、図解が大きく見やすくなっております。また、アイロンがけの仕方や、衣服のたたみ方の資料が豊富でございます。C消費生活・環境につきましては、さまざまな分野がバランスよく掲載されております。

次に「有効活用できるデジタル教材」について、主なものをご説明いたします。総QRコード数は144でございます。中でも、生徒がシミュレーションできたり、思考ツールが活用できたりするなど、学習効果を高める工夫がみられました。また、共同作業できるデジタルホワイトボードや、通信販売の体験などができるコンテンツもございました。

最後に「その他」についてご説明いたします。幼児の視界体験を学習用

端末のカメラや画像を通して実践し、体験できるようになっているというところが挙げられます。

続きまして、「教育図書株式会社」についてご説明いたします。

観点1につきまして、総ページ数は279ページでございました。A家族・家庭生活についてですが、57ページとなっております。家庭の仕事と生活時間の内容については、男女共同参画社会やワークライフバランス等の文言に触れております。B衣食住の生活は151ページからなっており、6つの基礎食品群の分け方の資料は見開きを効果的に活用し3ページで分かりやすい構成となっております。食品群ごとに食材が大きく表記されており、活用しやすくなっております。また、食品の写真も実物大表記があり、生徒が実感しやすくなっております。食品成分表につきましては、6つの基礎食品群と隣り合っていることや色分けされていることから学習しやすいと考えます。さらに、野菜の切り方や切り口の写真が実物大で配されております。衣服の手入れでは、アイロンがけのイラストが具体的に示されておりました。C消費生活・環境では、「災害への備え」が4ページあり、防災袋の中身など盛り込まれております。

観点2につきまして、総QRコード数は73でございました。コードの横にデジタルコンテンツの内容が表記されておりました。また、学習内容に関係のある方からのメッセージや動画を見ることができ、学習を身近に感じられると考えます。

最後に「その他」についてご説明いたします。巻末に自分の課題を見つけ工夫し生活するための実践例がまとめられており、学習支援がなされております。

最後に「開隆堂出版株式会社」についてご説明いたします。

観点1につきまして、総ページ数は、一番多く312ページでございます。A家族・家庭生活は71ページで、3者の中で一番多く、家庭の仕事と生活時間の内容については、資料が豊富で理解しやすくなっております。特に、性別役割分業やジェンダー、ウェルビーイング等「様々な家族・家庭」として項目立てることで、多角的に家族をとらえ、課題設定がしやすくなっていると感じました。B衣食住の生活は160ページからなっており、6つの基礎食品群の分け方の資料は、実物の大きさと表記されております。野菜の切り方の図解では、写真に切り方の点線があり、形状によって切り方の工夫ができることが理解できます。C消費生活と環境では生活災害の備えに関する10ページは、やはり3者の中で一番多く、資料が豊富であり、教科書から知識を得ることで問題を見出すことにつながると考えました。さらに、発展問題や考える問題が掲載されており、深い学びが可能であると感じました。

次に、観点2につきまして、総QRコード数は91でございます。実物大写真や多様なデジタルコンテンツが参照できるとともに、基礎縫い動画では、左利きの生徒にも対応しているなど細部にわたって工夫が見られました。

最後に「その他」についてご説明いたします。QRコードによるデジタル教材は、数で見ると3者の中で開隆堂が一番少なく見えますが、単元ごとにまとめられており、教科書にある資料を概ね学習用端末で見ることができるようになっております。目で見確認できる資料が豊富で理解しや

<p>すくなっております。 説明は以上でございます。</p> <p>(議長) ただいまの説明について、ご質問いかがでしょうか。</p> <p>(議長) 確認ですが、資料には、開隆堂のQRコードが91、それから教育図書が73とあります。先ほど開隆堂が一番少ないように言っていました。</p> <p>(専門員長) 申し訳ありません。私が間違えてしまいました。開隆堂が91、教育図書が73。東京書籍144でございます。</p> <p>(議長) 家庭科について説明がありましたが、ご質問いかがでしょうか。 お願いします。</p> <p>(委員) 食についてですね。特にアレルギー関連の扱いについては、どの程度扱われているのか、その違いがあれば教えていただきたい。</p> <p>(専門員長) 食のアレルギーにつきましては、やはり大事な項目として、3者において適宜扱っております。しかし、食育との連動の観点から、食育の学習の中でさらに深く掘り下げていく内容かなと思っております。</p> <p>(議長) よろしいでしょうか。</p> <p>(委員) はい。</p> <p>(議長) 他はいかがでしょうか。よろしいですか。 それでは、以上で家庭科についての調査報告を終了いたします。</p> <p>(議長) 続きまして、英語科の専門員長を入室させてください。</p> <p>(議長) それでは、説明をお願いします。</p> <p>(専門員長) 皆様、こんにちは。私は、英語科専門員長を務めます、ふじみ野市立大</p>
--

井西中学校教頭の高橋でございます。

これより、英語科調査研究の結果を説明いたします。英語科では「東京書籍」「開隆堂」「三省堂」「教育出版」「光村図書」「啓林館」について、調査研究を行いました。調査研究では観点を3つに設定し、観点1「知識及び技能が習得されるようにするための工夫」、観点2「思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫」、観点3「その他、学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫等」について検討を重ねました。その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点到に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、観点1についてご説明いたします。特に優れていた点として次の2点があげられます。単元をスモールステップで積み上げながら、統合的な言語活動へ繋げており、学習者にとって知的好奇心を高める設定がなされています。また、3回視点を変えて読む「ラウンドリーディング」「Read and Think」では、まとまった英文を適切かつ効率的に読めるよう工夫がなされています。

次に、観点2についてご説明いたします。特に優れていた点は次の2点になります。単元で基礎を固め、「ラウンドリーディング（3段階読み）」を通すことで、「思考力・判断力・表現力」をバランスよく身に付けられるよう構成されています。また、単元の既習事項を活用した「Stage Activity」を通して、4技能を統合した活動で思考力、判断力、表現力を伸ばすように構成されています。

最後に、観点3についてご説明いたします。優れていた点は次の2点です。各単元の「Activity」で積み上げられた表現を生かして、目的や場面、状況を踏まえながら、自分自身がしっかりと発信活動を行えるよう工夫されています。2点目は「Language Focus」や「デジタル用例辞典」等、生徒の興味・関心、また、外国文化への関心が高まるような工夫がなされています。

次に、「開隆堂」についてご説明いたします。

はじめに、観点1についてご説明いたします。優れていた点として次の2点があげられます。各単元で新出表現を4技能を繰り返し学習し、協働学習に繋げるよう配慮されています。2点目は、実生活に即した場面設定で4技能を伸ばせるよう工夫され、プレゼンテーション活動やポイントディスカッションの進め方など、4技能が満遍なく習得できるよう構成されています。

次に、観点2についてご説明いたします。優れていた点は次の2点になります。予備知識習得後、各「Part」で題材内容について考える「Retelling」活動や「自己表現活動」に繋がるよう、丁寧に配慮された構成になっています。2つ目は、「Program」の既習事項を活用し、学習者が4技能を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高められるよう構成されています。

最後に、観点3についてご説明いたします。優れていた点は次の2点になります。スモールステップで基礎・基本の定着を図りながら、協働学習へ導かれるよう、適切な対応がなされています。2点目は、学習者にとってAIを活用した効果的な学習ができるよう工夫されており、言語活動にお

いても必要な語彙が学べるよう適切に構成されております。

次に、「三省堂」についてご説明いたします。

はじめに、観点1についてご説明いたします。優れていた点として次の2点があげられます。各単元が「Goal Activity」にむけて構成されており、段階的な学びを重ね、習得した技能を統合的な英語力として習得できるような工夫がなされています。2点目は、実際の場面や状況に応じた即興のやり取りや、会話を継続する活動、必要な情報をつかむ活動等がたくさん組み込まれており、学習者への学習意欲を高める内容となっております。

次に、観点2についてご説明いたします。優れていた点は次の2点になります。意見や説明・物語文で構成された「Scene」で情報を整理し、「Goal Activity」では、目的や場面、状況に応じた自己表現活動ができるよう工夫されています。2点目は、単元の既習事項を活用し、4技能を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高めるよう構成されています。

最後に、観点3についてご説明いたします。優れていた点は次の2点になります。「Goal Activity」に向けて、目的や場面、状況に応じた表現を学び、考え、使える語句や表現を学習者が自然と円滑に身につくよう配慮されています。2点目は、教科書の題材に関連した動画を「Lesson」ごとに設け、異文化に対する理解や学びを深めるよう工夫されています。

次に、「教育出版株式会社」についてご説明いたします。

はじめに観点1についてご説明いたします。優れていた点として次の2点があげられます。文法の解説と整理、対話練習が設定され、「Project」を通して、これまで学んできた知識・技能を活用できるよう、学習者がしっかりと4技能を習得しやすいよう配慮されています。2点目は、日常的な場面を想定し、「生きて使える英語」をコンセプトに、しっかりとした英語表現を学べるよう工夫されております。

次に、観点2についてご説明いたします。優れていた点は次の2点になります。言語材料を習得し、課題を読んで理解を深め、自己表現活動につなげるよう構成されています。2点目は、単元の既習事項を活用し、4技能を統合した活動を通して、生徒の思考力、判断力、表現力を総合的に高めるよう工夫されております。

最後に、観点3についてご説明いたします。優れていた点は次の2点になります。学んだ知識や表現を生かし、4技能を統合的に活用しながら、課題解決に取り組み、「まなびリンク」では、生徒の多様な興味や学びを促すよう工夫されております。2点目は、言語活動において必要な語彙が適切に取り上げられていること、また、語彙を扱う場面において、太字表記されるなど、学習者にきめ細かな配慮がされています。

次に、「光村図書」についてご説明いたします。

はじめに、観点1についてご説明いたします。優れていた点として次の2点があげられます。3年間ひと続きのストーリーを通し、ラウンドシステムの授業にも対応できるよう構成され、学習者がスパイラルに学習できるよう工夫されています。2点目は、実社会の言語の使用場面で、学習者が役立つと思われる、または身に付けてほしい知識を、領域統合型の活動も含め、生徒の言葉でしっかりと表現できるよう、そのような即興力を養

えるよう構成されています。

次に、観点2についてご説明いたします。優れていた点は次の2点になります。既習事項を活用し、4技能を統合した多様な言語活動を通して、学習者の思考力、判断力、表現力が高まるよう工夫されております。2点目は、目的や場面、状況に応じた英語を聞くことを重視した内容になっており、本文に加え、「Part」や「Goal」にも豊富な言語活動を通して、学習者が4技能をしっかりと高められるよう工夫されております

最後に、観点3についてご説明いたします。優れていた点は次の2点になります。3年間のストーリーを通して生徒の主体的な発信につながりやすくなるよう、学習者に配慮されています。2点目は、言語活動において必要な語彙が「Key Phrases」「Key Words」新出語句を扱う「Words」等において、発信語彙が太字表記とされ、生徒が活用しやすいよう、配慮されております。

最後に、「啓林館」についてご説明いたします。

はじめに、観点1についてご説明いたします。優れていた点として次の2点があげられます。各単元が各学期末の技能統合型の言語活動として配置されている「Project」へ向けた構成となり、ラウンドシステムにも対応し、学習者がスパイラルに学べるよう工夫されています。2点目は、各技能領域に特化した活動を実生活に即した場面や状況設定で学習できるよう工夫されております。

次に、観点2についてご説明いたします。優れていた点は次の2点になります。各単元の言語の使用場面や状況、目的を捉えながら、しっかりと自分の考えが円滑に自己表現できるよう工夫されています。2つ目は、4技能を統合した活動にしっかりと取り組むことで、効果的に思考力、判断力、表現力が高まるよう工夫されております。

最後に観点3についてご説明いたします。優れていた点は次の2点になります。各単元で4技能の課題に取り組むことを通して、基礎・基本が定着しやすく、技能統合型の言語活動で技能を習得しやすいよう配慮されています。2点目は、デジタルコンテンツを活用し、自律的な学習を促すよう非常に工夫されています。また、解説を充実させ、生徒の興味・関心や異文化理解を深めることができるよう工夫されております。

説明は以上でございます。

(議長)

ただいまの英語の調査研究報告について、ご質問いかがでしょうか。お願いします。

(委員)

「4技能を統合した」という言葉がでてきますが、具体的に何に取り組むのか教えてください。

(専門員長)

現在、英語では4技能「話す」「聞く」「書く」「読む」の活動がございます。話す活動の中に「やり取りの部分」と「発表の部分」がございます。「4技能を統合」といいますと、その発表する部分で学んだことを活

かしながら、自分の何か伝えたいことがしっかりと相手に伝えられるよう、みんなの前にプレゼンテーションする、そのような活動を各者ともに教科書に取り入れられております。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他にはいかがでしょうか。

お願いします。

(委員)

英語の単語や構文等でQRコードだとか、ICTを活用したその量的なものは、教科書によって違うのでしょうか。

(専門員長)

ご質問にありましたQRコード、またICTの活用、デジタル教科書等につきましては、各者とも適切な分量で使われております。各教科書の各1ページに1つ配列されるような形をとっており、どの教科書会社もデジタル教材にしっかりと力を入れているな、甲乙つけがたいなという印象でございます。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他にはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、英語科についての調査報告を終了いたします。

(議長)

続いて最後でございます。道徳科の専門員長を入室させてください。

(議長)

それでは、説明をお願いします。

(専門員長)

皆様、こんにちは。私は、道徳科専門員長を務めます、富士見市立富士見台中学校、校長の後藤でございます。

これより、道徳科調査研究の結果を説明いたします。道徳科では7者に

について調査研究を行いました。調査研究の観点といたしましては、「教材について」、「授業づくりについて」、「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、「東京書籍株式会社」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、「教材について」ご説明いたします。読み物の他に、漫画などの教材も多く使われており、全体としてバランスがよいと感じます。また、今まで長く読み継がれてきた教材と今日的な課題に即した教材も適切に掲載されているとともに、学びを補う資料のページも豊富でありました。さらに、漫画の名場面が掲載されており、生徒の興味関心を高める工夫として効果的であります。

次に、「授業づくりについて」ご説明いたします。教材の最後に、教材文に沿って考える発問「考えよう」と、自分自身について考える発問「見つめよう」が掲載されており、これまでの自分及びこれからの自分の生き方について考えを深める学習活動が展開されております。また、ねらいとする道徳的価値に迫るための良質な発問が多く設定されています。また、「プラス」のページには、生徒が書き込む箇所が多く、さまざまな図や写真及び資料などが豊富であり、授業で活用しやすい工夫がされてきました。

最後に「その他」についてご説明いたします。VR映像、心情円など、デジタルコンテンツが充実しており、授業者にとって指導法の工夫改善に役立てることが出来ます。

続いて、「教育出版株式会社」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、「教材について」ご説明いたします。日常生活に関連した教材が多く、生徒は自分自身と重ね合わせながら考えやすい教材が多かったです。また、教材自体に場面絵や写真が豊富で、教材についての理解を深めるよい工夫がされています。

次に、「授業づくりについて」ご説明いたします。タイトルの下に、ねらいとする道徳的価値について問いかける発問が設定されており、生徒は学習の見通しをもつことが出来ます。また、「学びの道しるべ」では、生徒の思考の流れに沿った発問が設定されており、生徒が主体的に話し合いながら考えを深める授業展開が期待できます。

最後に「その他」についてご説明いたします。SDGs目標との関連が一覧として記載され、持続可能な社会の担い手となる人材の育成に資する工夫がされています。

続いて、「光村図書株式会社」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、「教材について」ご説明いたします。読み物教材に加え、「なんだろうなんだろう」や「やってみよう」などの多様な指導展開が考えられる教材も充実しています。漫画形式の教材もあり、生徒にとって内容理解がしやすい工夫もされています。また、テーマをもったユニットによって教材が配列されており、教材と教材を関連付けながら複数時間かけて深く考えることができるよう工夫されています。

次に、「授業づくりについて」ご説明いたします。小学校の道徳科で学

んだ教材を付録として掲載していることにより、生徒が小学校のころの自分の考え方や感じ方と比較することができる工夫がされています。また、「見方を変えて」という多面的・多角的に考えることにつながる発問が用意されており、生徒の考えを広げたり深めたりするのに効果的です。

最後に「その他」についてご説明いたします。現代的な課題等との関わりや他教科・領域との関わりが明記されおり、教科横断的な学習や教育活動全体で取り組む道徳教育と関連させた指導も期待できます。

続いて、「日本文教出版株式会社」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、「教材について」ご説明いたします。漫画の名場面を活用したり、中心人物が教材名の下に描かれていたり、生徒の興味関心を高めるとともに、教材の内容理解に役立つ工夫がされています。また、読み物教材の補足資料として、教材の主人公からのメッセージやSNS、安全な生活など、具体例や実際のデータ等が多く掲載されており、生徒にとって分かりやすく、かつ授業において効果的に指導できるようまとめられています。

次に、「授業づくりについて」ご説明いたします。「学びを深めるヒント」では、ICTの活用や意見発表の場面等、深い学びにつながる工夫が具体的に示され、多様な授業が展開できるよう工夫されています。また、「自分にプラスワン」や「学びを深めよう」は、生徒が本時の学びを深く考える上で効果的な工夫であると感じました。

最後に「その他」についてご説明いたします。道徳ノートがついているので、授業において書く活動を行いやすいです。

続いて、「株式会社Gakken」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、「教材について」ご説明いたします。複数の教材と「クローズアップ」というコラムを組み合わせ、「SDGs」「多様性」「キャリア」について考えを深める「ユニット学習」が設定されています。また、人物についての教材が多く掲載されており、その人の生き方から生徒自身の生き方を見つめる学習活動が展開しやすい構成になっております。

次に、「授業づくりについて」ご説明いたします。「クローズアップ」「深めよう」は、生徒の考えや学習活動を補ったり深めたりする資料が多く設定されています。また、教材名の下に、教材のワンシーンが描かれており、本時の学習に対する生徒の興味関心を高めるのに効果的であります。

最後に「その他」についてご説明いたします。毎時間及び各学期の学びを記録する「学びのメモ」というページがあります。

続いて、「あかつき教育図書株式会社」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、「教材について」ご説明いたします。長く読み継がれてきた教材が多く掲載されています。また、「いろいろなテーマから学ぶ」として、現代的な課題についての教材がテーマごとに示されています。

次に、「授業づくりについて」ご説明いたします。「自分との対話」という問いがあり、教材から離れてこれまでの自分や人間としての生き方について考えを深める発問が掲載されています。また、「Thinking」は本時

の学びを深めることにつながるとともに終末の説話にも活用できます。さらに、「MY PLUS」は生徒が多面的・多角的に考えるための学習活動が示されています。

最後に「その他」についてご説明いたします。現代的な課題や他教科・領域との関わりが明記されていて、教科横断的な指導を展開することも考えられます。

最後に、「日本教科書株式会社」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、「教材について」ご説明いたします。「真理の探求、創造」の教材は哲学的な内容であり、論理的・批判的に物事を考えることを通して、生徒は新たなものの見方や考え方に気づくことができます。また、4つの視点ごとに掲載されている4コマ漫画は、生徒の興味関心を高める工夫として効果的であります。

次に、「授業づくりについて」ご説明いたします。「考えてみよう」は、中心発問として、「深めよう」は、これまでの自分の生き方を見つめなおし、よりよい生き方について考えを深める発問であります。また、教材の最終ページにある「memo」は生徒が考えをまとめたり、友達の考えを聞いて学んだことを書いたりすることができます。

最後に「その他」についてご説明いたします。付録としてウェルビーイングカードがあり、これを活用することによって、多種多様な意見が出され、充実した話合いが期待できる工夫が施されています。

説明は以上でございます。

(議長)

ただいまの報告について、ご質問いかがでしょうか。
お願いします。

(委員)

ワークシートを中心とした別冊について、指導上の取扱いについてお聞きしたい。

(専門員長)

別冊につきましては、書く活動を行うことに非常に有効です。教員がワークシートを作らなくても、すぐ別冊に書かれている発問について授業で説明をし、生徒がそれについてすぐに書くことができるという良さがあるかと思えます。その一方で、別冊があることによって、書かれている発問の通りに授業を展開せねばならぬ、というような形で、授業を固く考えてしまい、授業が固定化されてしまう危険性がなくはないかと考えています。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)
他にいかがでしょうか。
お願いします。

(委員)
テーマを持ったユニットによって教材が配列されているということですが、そのプラスの面とマイナスの面を教えてください。

(専門員長)
ユニットの構成があることによって、その内容項目を生徒に強く意識をさせる、力を入れて指導ができるというメリットがあるかと思います。ただその一方で、そこに複数時間をかけることによって年間の指導計画のバランスというものについても考えなければいけないかと思います。

(議長)
よろしいでしょうか。

(委員)
はい。

(議長)
他にいかがでしょうか。
お願いします。

(委員)
道徳は考えるだけではなくて話し合うというか、議論することも大事だと思うのですが、それについてお伺いします。

(専門員長)
おっしゃるとおりでございます。教科化になりまして「考え、議論する道徳」という言葉で道徳科の授業が表現されております。やはり、授業を行う中で、友と語り合うということが授業の根幹になることは間違いないかと思います。その点で教科書を見ていきますと、どの教科書会社にも生徒が主体的に話し合うことのできる上質な発問が教材の最後の方についていると考えております。

(議長)
よろしいでしょうか。

(委員)
はい。

(議長)
他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

<p>5 諸連絡</p>	<p>それでは以上で道徳科の質疑を終了いたします。</p> <p>(議長) これで予定されていた報告は終了となりました。事務局から、その他の協議事項はございますか。</p> <p>(事務局) 特にございません</p> <p>(議長) それでは特にないようですので、以上をもちまして議長の任を解かせていただきたいと思います。長時間にわたり、慎重なご審議、ありがとうございました。</p> <p>(司会) 続きまして、諸連絡にうつります。事務局よりお願いします。</p> <p>(事務局) 第3回協議会につきましては7月30日火曜日、午後1時から三芳町役場301会議室で実施を予定しております。よろしく願いいたします。以上です。</p>
<p>6 閉会</p>	<p>(司会) 以上をもちまして第2回第10採択地区協議会を閉会いたします。皆様、長時間の会議、大変ありがとうございました。</p> <p>(一同) ありがとうございました。</p>